



会報

2012 No.23

東京府立第二高等女学校同窓会
東京都立竹早高等学校同窓会



特集

揺れた一年 —— 竹早高校の学園紛争 —— 5~12

篁会總會のご案内 1	なつかしの先生、竹早エコー 18
講演会のご案内 1	被災地からの手紙 21~22
篁会会長挨拶文 2	篁情報館、竹早高校文化祭 23
竹早高校校長挨拶文 2	「篁」回覧板、 24
篁会110周年企画、東京府立第二高等女学校記念碑、Tシャツ、 城戸崎愛先輩のお料理教室 3	清里高原竹早山荘から 25
篁会「Web同窓会システム」のご案内 4	学年幹事会報告 25
篁会特別セミナー報告 13~17	第5回篁寿会開催 26
学校の活動報告 19	関西篁会だより、湘南篁会だより 27
在校生の活躍紹介 20	平成23年度「篁会総会・懇親会」報告 28
	理事会報告 29~30



平成 24 年度 篁会総会のご案内

今年は篁会が発足して111年にあたります。
皆様ふるってご参加ください。

日時 2012年6月17日(日)

受付開始 10:30
総会 11:00~11:40
講演会 11:45~12:30
懇親会 12:40~14:50

会費 8,000円

平成21年~23年卒は2,000円

平成24年卒は無料

- ご出席の方は、同封のハガキで5月25日(金)までにお申し込みください。
- 会費は、5月25日(金)までに同封の郵便局の払込取扱票でお振り込みください。

会場 学士会館 2階 (210号室)

東京都千代田区神田錦町 3-28

TEL.03-3292-5936

交通のご案内

- ◆地下鉄都営三田線 「神保町」 駅下車 A9 出口 1分
- ◆地下鉄都営新宿線 「神保町」 駅下車 A9 出口 1分
- ◆東京メトロ半蔵門線 「神保町」 駅下車 A9 出口 1分
- ◆東京メトロ東西線 「竹橋」 駅下車 3a 出口から徒歩 5分
タクシーで 10分
- ◆「東京」 駅北口から

<総会・懇親会のお問い合わせ先>

渡辺 信博 (22 回生)

TEL.03-3919-3037

<今回幹事>

高校 22 回生：昭和 45 年卒
高校 33 回生：昭和 56 年卒
高校 43 回生：平成 3 年卒
高校 63 回生：平成 23 年卒

<次回幹事>

高校 23 回生：昭和 46 年卒
高校 34 回生：昭和 57 年卒
高校 44 回生：平成 4 年卒
高校 64 回生：平成 24 年卒

講演会ご案内

テレビの明日 — テレビ報道の可能性と限界のはざままで —



講師

後藤 和夫氏

愛媛県出身だが、0歳から東京っ子。高校は2年までしか行かなかったが、1970年に卒業。学歴無しに等しい。みずがめ座でA型。妻と3人の娘あり。卒業後、大島渚監督「東京戦争戦後秘話」に主演。自身も自主映画の監督をする。1979年、物書きをしていたとき、テレビ番組で無人島サバイバルを体験。それが縁で武市プロダクションでディレクターを始める。以後ただのディレクター。ドラマ、歌番、お笑い以外のノンフィクションは大抵やった。グルメから旅物、人間ドキュメントからお気楽温泉ものまで、プロデューサーだったりディレクターだったり。構成もほとんどやって、ナレーション原稿は自分で書かなければ気がすまない。軟派な男だが硬派のドキュメントが好き。後は戦場で弾に当たるしかない、2000年、フリーになり、古館プロジェクトに所属。以後、パレスチナ・北朝鮮へは定期的に訪問、本格的な密着取材で大変な評価をされている。

<経歴>

1970年 竹早高校卒業
1979年 武市プロダクション入社
1980年代 NTV「追跡」「大追跡」(93年まで12本)
CX「なんてたって好奇心」「インドが笑う、寅さんのウィーン」「直木賞作家と女優のアスカ紀行」TX「ラブコール」シリーズ「吉永小百合、松坂慶子、名取裕子、池上季実子」ANB「ネイチャリングスペシャル・加山雄三のロッキー山脈」ANB「横井庄一と7人の美女無人島に挑む」(85年まで4本)
1979年 TBS「日曜特番・ラジコングランプリ」TX「無人島に裸の男女20日」(本人テレビ初主演・演出作)
1999年 武市プロダクション退社
2000年 古館プロジェクト所属

<著書>

「うちのお父さんは優しい〜検証・金属バット殺人事件〜」平成12年4月発売 (鳥越俊太郎氏と共著)
(明窓出版)

箠会会長挨拶 「万年女学生」

松本 紀子 高女 41 回生 昭和 16 年卒（箠 41 回生）



「女学校」「女学生」、既にノスタルジックに響く言葉ですが、私にとっては、青春の時期に出会った喜びや悲しみのドラマが喚起され、魅力と誇りに溢れたものなのです。思春期を過ごす場としての女学校とその中に創りだされてきた「文化」は、その生活を彩るだけでなく、卒業後も維持され、引き継がれ、80歳をとうに超えた今も「万年女学生」と自負しています。

1900（明治33）年に創立された東京府立第二高等女学校に私が入学したのは、1936（昭和11）年。憧れの第二に合格できたときの喜びは天にもものぼる幸せで一杯でした。尋常小学校を卒業したばかりの右も左も分からない私たちを、5年の長い年月、根気よくご指導くださった心温かい先生方への感謝はいつまでも忘れません。

スカートをなびかせて楽しい毎日。吉屋信子、夏目漱石を愛読し、大学生の兄の書棚にならぶ小説や雑誌に胸ときめかせ、宝塚歌劇「すみれの花」に夢中でした。六大学野球に熱を上げ、早慶戦の翌日は大騒ぎ。歌劇派が仲をとりもつこともしばしばでした。クラブ活動もさかんで、バレエ、バスケットも結構強くて応援に声をからしました。私はコーラス部、あこがれの素敵な先生の指揮で、ピアノを弾かせて頂いた橋本国彦の「川」は今でも大好きな曲で、仲間の愛唱歌となっています。

この時期、誰もが覚えているS（SISTERHOODの頭文字で、女学生同士の手紙のやりとりなどロマンティックな姉妹関係）については、後日、あるジャーナリストが話題にしたこともありましたが、私たちにとってはそんな深刻なものではなく、女学生時代の少し甘ずっぱい思いのひとつに過ぎないのでは……。

昭和12年日中戦争勃発。私たちの身の回りに戦争の影が色濃くなり、重苦しい空気がしのびよってきました。世相を反映して、月曜日には梅干しとご飯だけの日の丸弁当を持って、女子の体位向上をめざした剛健遠足。とにかく歩きました。手足の甲も指もパンパンにはれて、遠足ではなく厳しい鍛錬でした。また、文部省の通達で行われた体力測定は、運動神経の鈍い私にとっては立きたい程でした。投げたボールも、走り高跳びのバーも目の前で落ちる有様で、こんなことがなかったらどんなに世の中楽しいだろうと真剣に考えました。

時は過ぎ、昭和15年5月6日から18日まで行われた関西・朝鮮旅行は、女学校生活の最後を飾るにふさわしい大イベントでした。加藤覚亮校長の英断と協力された先生方、難しく厳しい時代に、多くの反対にもかかわらず援助の手を惜しまなかった保護者の皆さまへ、70余年過ぎた今も、ありがたく感謝の思いを心に刻んでいます。

1941（昭和16）年3月卒業。12月8日に太平洋戦争が始まり、苦難の道はこれから続きます。

校長挨拶

「伝統の力を生かして」

丹藤 浩 竹早高校校長



大震災以降、多くの人々は、これまでの来し方を問い直し、変わらざるを得ないことも多い、と考えるようになったと思います。未曾有のとはいえ、ここまで復興の歩みが遅いとは、自分にできることの小ささに怒りすら覚えます。年も改まり、ぜひ、新たな国づくりが加速度的に進んでいくことを願うばかりです。

一昨年、創立110周年の6月に、東京都教育委員会から進学指導推進校に指定され、改めて、進学実績の向上を目ざして進学指導の充実を図るよう求められました。指定を受けて教員公募を実施し、竹早で教科指導を行いたいという教員を迎えることができるようになりました。この4月の異動がその2回目ということになります。今後ますます、教科指導の充実と進学指導の結果が問われることになります。府立第二高女以来の歴史によって、本校は都立高の中でも名高い地位にあります。昨今の進学実績に首をかしげられることもあり、かつての竹早を名実とも取り戻すよう求められています。一朝一夕にはいきませんが、教育活動の質の向上を期し、進学結果も着実に伸ばしていきたいと考えます。

本校が、「先輩から学ぶ」として「箠会特別セミナー」を実施して4回、竹早生が自分の生き方について考える上で、同窓生から刺激を受ける貴重な場であり、キャリア教育の一環でこうした機会を設定できるのは、伝統校である本校の強みです。進学指導は、「〇〇大学に何人」といった数字ばかりに目を奪われがちですが、「一体何のために学び、働くのか」といった目的意識を高校時代に自分の内に確立させていくことが、本質的な課題だろうと思います。

着任以来、私が思うのは、今、竹早に集う私たちが、同窓生にとっての「誇るべき母校」を次代に引き継ぐにふさわしい教育活動を担っているかどうかということです。縁あって赴任した高校が閉校となった時、同窓生を前に話す言葉が見つからなかった経験をした私にとっては、竹早が「誇るべき母校」として、常にふさわしい学校であり続けるよう努めたいと強く感じています。「箠会特別セミナー」をはじめ引き続きご支援をお願いいたします。

箆会 110 周年企画

東京府立第二高等女学校記念碑

東京府立第二高等女学校は明治33年(1900年3月1日)に創立。第1回卒業生を送り出した年が明治34年(1901年)。ここに当時の建学の精神を尊び、箆会110周年記念事業として記念碑を建立する。



Tシャツ販売



箆会 Tシャツ
1枚2000円

このTシャツの売り上げは原価・経費を除いた全額が教育基金に入れます。どうぞ、ご協力をお願いします!!!



箆会 110 周年企画

「城戸崎愛先輩のお料理教室」とトークショー
「大先輩乙女心を語る」のご案内



箆会 110 周年企画の仕上げです。第一部、はNHK「今日の料理」でおなじみの、ラブおばさんこと城戸崎愛先輩が、講師となってお手軽なお料理を教えてくださいます。

第二部は、大先輩の方々をまじえてのトークショー「大先輩乙女心を語る」を予定しております。

お申し込み、詳細については同封チラシをご覧ください。

簗会「Web 同窓会システム」のご案内

簗会「Web 同窓会システム」は、インターネットを通じて新しい同窓会の運営を目指すシステムです。同窓会を活性化させるために必要な「システム」や「サポート」を提供していきます。

かんたん管理 ホームページで簡単に情報更新

会員お一人ずつ、専用のページから情報の閲覧や更新作業などをしていただきます。
※専用ページに入るための鍵（ID、パスワード）をお一人ずつお渡しいたします。
同封のチラシをご覧ください。

ホームページでできること

- 本人情報の変更や、情報の公開・非公開設定
引っ越しなどによる住所変更を簡単にホームページから変更することができます。
- 会員情報の検索・閲覧
連絡を取りたい方をホームページで検索・閲覧することができます。
- 連絡先不明の方の情報提供
- 事務局からのお知らせ確認
今まで電話・FAX・手紙などでやり取りしていた情報を、ホームページ上で、簡単・スピーディーに情報の伝達を行えます。

個人情報保護にも対応

個人情報保護法に基づき同窓会運営を行いますので、外部の人間が情報を見ることはできません。

- SSL (Secure Socket Layer)の使用
現在最も秘匿性が高いとされているセキュリティ維持方式 SSL を使用します。
- 安全管理
個人情報を正確かつ最新の状態に保ちつつ、不正アクセス・紛失・破壊・改ざん・漏洩または会員本人の同意を得た場合以外での再提供などないように、適切な管理を実施します。

同窓生同士のコミュニケーションを自由に交流できる空間へ

新規簗会ホームページ (<http://www.takamurakai.com>)は、同窓会生同士が「facebook」「twitter」「mixi」等で自由に交流できる新たな空間（場所）です。

昭和44年4月、某新聞に竹早高校の教師の不正事件が報道された。いわゆる教師の3ト（リベート、アルバイト、プレゼント）等々によるものである。その後、連日開かれた全体集会では教師を糾弾する声があがり、授業はボイコット。さらに生徒たちの活動はエスカレートし、生徒権宣言が出されたのに続いて、新校舎建設の期間、間借りした新宿高校ではバリケードが組まれるなど、竹早高校は荒れに荒れた。

あの一年を振り返り、当時の在校生、教師の方も含めて、紙面の許す限り個々の思いをつづっていただいた。

竹早追憶

堀越 一哉 高校22回生（筮70回生）

都立高校受験に臨むにあたり、戸惑いを感じていた。くじりきのような学校群制度が始まったからだ。41群を受験した生徒の、第二高女を目指していた女子はまだしも、男子にとってはおそらく全員が小石川高校に行きたいと思っていたのだろう。

不本意な気持ちを整理できないでいた生徒たちの心情や思惑とは裏腹に、竹早の教師たちの希望と熱意に満ちた教育が加速していく。こうした温度差が、次第に摩擦を生み、衝突となり、やがて起こる学園紛争、ストへと発展していくことになる。

「大学には行きたい。でも、このもやもやは何だ」。そんな気持ちがずっとくすぶり続いていた。

高校3年の夏、新校舎建設のため、新宿高校の旧校舎に間借りすることになった。周りに何もなかった文京区時代に比べ、新宿仮校舎への通学路、とりわけ新宿中央通りは、まさに青少年にとって誘惑そのものであった。

一箱80円のハイライトを吸いながら、一杯のコーヒーで5時間も6時間も過ごした名曲喫茶『ウィーン』。パチンコ、スマートボール、ビリヤード、雀荘に入り浸っていた

憂さ晴らしのような毎日。粗悪な油で揚げたイカ天二枚の100円天井がごちそうだった。

特に映画館は至るところにあり、伊勢丹界隈にあったシネマ新宿、日活名画座、昭和館、新宿アートシアター、蠍座あたりでむさぼるように見まくった。

そして、その冬、バリケード・ストに失望した竹早映研の連中と映像制作集団“グループポジポジ”を結成し、8ミリ映画を撮ることになった。撮影拠点となった新宿御苑は、校舎と隣接しており、破れたフェンスをくぐって入れた。マロニエの並木道、ヒマラヤ杉、日本庭園等々、美しいロケーションがふんだんに利用できた撮影は、この上なく楽しく充実していた。

「映画の世界にでも進もうか」。漠然とではあるけれど、暗澹たる将来にわずかばかりの光を見出せたのは、卒業を間近に控えた頃だった。

もし私に、恥ずかしながら青春という大人になる前のときめきの時期があったとしたならば、それはこの頃を指すのだろう。

昨日のこと

後藤 和夫 高校22回生（筮70回生）



君が文京区春日二丁目です電から元氣よく飛び降りたあの時代。

学校群制度が導入され、小石川高校と41群を形成した竹早高校は女子の名門だった。1967年度男子100名、女子198名。A、Bが男子クラス。CからFが女子クラス。男女共学とは名ばかり。圧倒的な数で男子を威圧してきた伝統が残っていた。おまけに古ぼけた校舎は学芸大付属中学と共用で、施設や設備の不足は否めなかった。

そんな中、教師たちは小石川高校に対するライバル心むき出しで、入ってきたばかりの君に進学に向けた受験指導を無邪気に強要した。

しかし、時代はそれほど無邪気ではなかった。ベトナム

では枯葉剤が撒かれ、中東ではイスラエルとアラブ諸国が3度目の戦争を繰り広げていた。君は多胡輝の『頭の体操』や、連載が始まったばかりの『あしたのジョー』に夢中になっていたが、アメリカでは黒人暴動が活発化し、夏には新宿で米軍に燃料を輸送する列車が脱線炎上していた。ブルー・コメッツの『ブルー・シャトウ』を口ずさんではいたが、10月に起こった佐藤総理のアジア訪問を阻止する流血デモも横目で見ていた。なんだか時代がいらいらしていた。教師は受験戦争に勝るとばかりに鞭を振るうが、目指す大学ではバリケードなるものが出現し、学生たちは授業をボイコットし反戦を叫んでいた。

翌年1968年には、東京大学は無期限ストに入り、卒業式が中止になった。日大でも経理の用途不明金問題が発端と

なり、学生が全学共闘会議を結成。いわゆる全共闘運動が全国に広がっていった。

アメリカ本土でも、フランスでも学生たちがデモに明け暮れていた。その一方でマーチン・ルーサー・キングやロバート・ケネディが暗殺された。アメリカはベトナム戦争からの撤退を迫られていた。

50円の10本入り両切りピースの味を覚え始めた君は、新宿駅を学生が占拠し「新宿解放区」などと呼んでいるのを面白がり、サントリーレッドでゲロを吐いたりもしていた。

年が明けると、正月気分も抜けないのに、東大の安田講堂で機動隊と学生の攻防が繰り返され、テレビは延々とその様子を映し出した。フランシーヌはパリで政治活動中に焼身自殺し「あまりにもおバカさん」と歌われた。ジョンとヨーコが結婚し、永山則夫が連続して射殺事件を起こし、アポロが月面着陸した頃、君の竹早高校では教師のリベート・補修費の不正が発覚し新聞ネタにされていた。世は反戦とか、政治体制とか、革命とか、高度成長の膿が漏れていたのに、なんとも古典的な教師の犯罪だった。

5月。僕らの5月革命は全体集会、授業ボイコットから始まり、なんと『生徒権宣言』なるものまで作り上げた。

「我々は生徒会自治活動において自ら議決し執行する権利を有する」

珍しいことに学校側も『本校教育の反省』なる文章を配布し、『生徒権宣言』に対しても、それが生徒による学校運営へのかなりの介入を宣言しているにもかかわらず“生徒の切なる願い”として評価していた。後日談だが、この『生徒権宣言』は平成6年まで生徒手帳の冒頭に記載されていたと言う。

しかし、一度はじけた反逆は止まらなかった。ちょうど校舎は文京から新宿高校の間借りへと変わった。新宿は反乱の街であった。その只中に竹早紛争は異動したのだった。

10月22日の全校総会で出席者704名中、賛成321名、反対249名の比較多数決で全学ストに突入した。校舎はバリケード封鎖され、連日生徒集会やクラス討論会、学校側と

の討論が続いた。

君は朝、学校に行き、鞆を教室に置くと、刺激的な新宿の街に毎日繰り出していたにちがいない。新宿西口ではフォークゲリラと言われる若者たちが『友よ』を合唱していた。庄司薫は『赤頭巾ちゃん気をつけて』と言い、カルメン・マキは『時には母のないこのように』と歌い、由紀さおりが『夜明けのスキヤット』していた。小便臭い映画館では高倉健と池部良が肩を並べて歩いていたし、『真夜のカーボーイ』は新宿の裏通りの匂いがした。

その一方で、反乱の熱気にも陰りが出始めていた。書を捨てて街に出た者たちに「うちへ帰ろう」とささやく声もあった。

成田では新東京国際空港が建設を開始し、佐藤栄作は沖縄返還を取り付けた。

テレビではコント55号と巨泉・前武が人気を集め、この年日本は、西側諸国でGNPが第2位となった。

卒業を控えた翌年1970年。大阪では万博が開かれ、「我々は明日のジョーだ」と名乗った若者たちが北朝鮮に飛んだ。君たちのバリケードは冬休み前に自主的に撤去されていた。

卒業式らしい卒業式の記憶がない。君はその日もアルバイトでずいぶん遅くに学校に来て、職員室の窓から教師に卒業証書を投げ渡されたのではなかったか。「もう来るなよ」と教師が言ったかどうか。

卒業してまもなくビートルズが解散した。

最近、世界中でデモが起こっている様子だ。日本でも少し起こっているらしい。米兵たちが戦地から続々帰還している。由紀さおりの『夜明けのスキヤット』が世界中で流れている。

40年前だって？

いや、ほんの昨日のことだ（2011年の終わりに）。



明るい青春小説

菊地 恵子 高校22回生（筲70回生）

「学校群制度」の構想は春に発表され、夏には実施が決定された。その1966年の秋、第一回の学校群受験生の声が聞きたいと、テレビ出演の依頼が文京六中に来た。学年委員会での自由討論が取材され、局側から発言者と発言順序を決められて（生出演での発言も、予めシナリオができていたのだと知った）9組18人の学年委員は小川宏ショーに生出演した。はっきりとは覚えていないのだが、受験科目が3科目に減ったことや、内申書重視についてよりも「自分の行きたい学校に行けないかもしれない」

ことに対する不満の発言が多かったと記憶している。なぜ行きたい学校を受験することが許されないのか、なぜ本人の希望と関係なく学校を振り分けられてしまうのか、という言葉の裏には「小石川に行きたい」という気持ちが込められていたと思う。

文京区には誠之小学校→文京六中→小石川高校→東大という「コース」があるというのは、中学に通い始めてから知ったのだが、東大とは言わないまでも、難易度の高い大学を目指している者にとっては小石川高校への進学が目標であった。当時の小石川高校は、東大入学者数で全国

5位くらいであったのだから。それが1年足らずのうちにばたばたと学校群制度が決まり、受験となったのである。中学側も内申書重視に対して過剰に反応して、学力考査を通りそうな者の通知表の「5」を、学力考査がぎりぎりになりそうな者に分配するということまで行われていた。担任から説明を受けた母は「この通知表は一生残るのに…」と最後まで納得できない様子だった。

蓋をあけてみれば、男女比から見て当然なのだが、小石川に行けない女子の方が多かった。ものすごくがっかりした。落胆の理由は、私の場合、男女比と制服だった。

まず、小学校、中学校と男女ほぼ同数で過ごしていたので、男女比が1:2であることが不自然で違和感があった。そして入学したら男子クラス、女子クラスにきっちり分けられていて、このことが落胆に追い打ちをかけた。さらに、一学年下から男女混合クラスになったことは、もっとショックだった。

制服があるというのも嫌だった。制服のある都立校が多かった中で「小石川には標準服はあるけれど普段は何を着てもいいのだ。上の学年の人たちが学校側と交渉して服装の自由を勝ち取ったのだ」と聞いていた。

小石川は私服でもいいのに、竹早はセーラー服と詰め襟の学生服、しかも、体操服はスコート。大人が穿くような透明感のある黒のストッキングの着用不可とか細かいところまで決められていて、小石川（の服装の自由）への羨望は強まるばかりだった。

セーラー服とスコート以上に府立第二高女の伝統を感じたのは受験指導であった。

2年の進路相談で、建築の設計をしたいので一級建築士の受験資格がとれる大学を第一志望にしたいと申し出たのだが、担任は、ともかくお茶の水を受験しなさいと言うばかり。確かにあの頃女性が建築に進むのは稀で、担任も適切なアドバイスはできなかったのであろう。しかし何度説明しても「第一志望はそれでいいのよ。でもお茶の水も受けたらどうかしら。」と繰り返す担任の言葉を聞いて私は、竹早がお茶大合格者数トップを維持するための駒にすぎないのか、合格者数が担任としての評価になるからといってこんな無茶を言うのかと啞然とするのだった。

村上龍の小説『69』を読んだことがあるだろうか。「1969年、この年、東京大学は入試を中止した。ビートルズはホワイトアルバムとイエローサブマリンとアビーロードを発表し、ローリングストーンズは最高のシングル『ホンキー・トンク・ウィメン』をリリースし、髪の毛の長い、ヒッピーと呼ばれる人々がいて、愛と平和を訴えていた。パリではドゴールが退陣した。ベトナムでは戦争が続いていた。」という書き出しではじまるこの小説は、村上龍の自伝的「明るい青春小説」である。68年のエンブラ闘争後の佐世保の高校生である主人公は、好きな女の子に近づきたいために映画を撮ろうとし、気を引きたいがために学校をバリケード封鎖する。

1969年の7月21日にはアポロ11号が月面着陸した。ち

ょうど予備校の夏期講習に行ったときに号外を受け取った。7月の強い日差しで影の消えた真っ白な道で号外を受け取ったあの日の記憶は鮮烈だ。「2001年宇宙の旅」が前年公開されたこともあり、宇宙にどんどん出て行く時代に生きていくのだから、とわくわくするのだった。

3年の2学期からは新宿高校の取り壊し直前の校舎に間借りすることになった。

それまで、昼間は学芸大付属中学と校舎校庭を分け合い、部活の終わる夕方以降は定時制に教室を明け渡す毎日であった。ここでも新宿高校とは塀で仕切られ、まったく交流ができない状況だったうえに、古くて暗くて床もぎしぎし鳴る取り壊し予定の校舎に入れられた。当初、卒業式は新校舎の講堂でできるかもしれない、と聞いていたのだが間に合わず、結局、3年間狭くて壊れそうなところばかりで高校生活を送ることになった。

校庭は使わせてもらえなかったから、体育の授業は新宿御苑を横切って千駄ヶ谷の東京体育館のプールで行われた。男女合同で御苑を横切って歩いていくのだが、行列がだんだん間延びして人がばらけて、そのうちずっと消えてしまうカップルなどがいたのも懐かしい思い出である。

当時の新宿南口は場外馬券売場があって風紀が悪いと言われていた。

「フーテンのたまり場風月堂やライブハウスのACB（アシベ）にはぜったい行かないように。とくに新宿高校の手前（新宿寄り）の道は、ホテルとかがあってたいへん危険なので絶対入っていかないように。広い道沿いのACB前でもしょっちゅうカツアゲがあるので気を抜かないように。もしカツアゲにあったら声を上げたりもみ合ったりせず、しゃがむように。しゃがみ込むのが通行人の注意を向けさせる一番有効な方法である」と細かな注意があった。素直な高校生だったので、在学中は決してホテル街への道には進入せず、風月堂には近寄らず、ACBの前は一目散に通り過ぎるのだった。ちょっと残念なことをしたかもしれない。

2学期はほとんど授業がなく、生徒集会に明け暮れた。集会での話し合いも、先生たちとのどんな授業を受けたいのかという話し合いも、手探りの稚拙な自主授業も、今思えばすごく真剣だった。このままでは学力不足で浪人を覚悟しなくてはとか、出席日数が足りなくて留年になるのではとか、そんなことが聞こえては来たけれど、気にならなかった。

全国のあちこちの高校でバリ封が行われていて、自分たちの高校のことも新聞に記事が載っている。私たちも、自分たちの手で新しい時代を作っているんだという、あの69年の時代の空気に酔っていたのかもしれない。

69年度入試は、前年度に東大と教育大の入試がなかったために、浪人がどう動くか予想がつかず大荒れになると言われていた。私たちは高校入試だけでなく、大学入試もまた「予想のつかない」状況に遭遇してしまったのである。

それでは、君の高校生活は悲惨だったのか、暗いだけの

日々だったのかと問われれば、正直に言って十分に「明るく楽しかった」のである。

朝、昼、放課後と部活に励んだこと、体育祭実行委員になって、種目、演目を考えたり、応援団をやったこと、文化祭で影絵芝居「赤いろうそくと人魚」に出演させてもらったり、尾瀬にキャンプに行ったり、修学旅行も楽しかったし、とたくさん楽しかったことが思い出されてくる。

小説のように、いや小説以上に、世の中でも高校でもない

ろいろなことが起きた3年間だったけれど、私にとっては『69』に負けないくらいの「明るい青春小説」が書けるような楽しい高校生活だったなあとしみじみ思うのである。



竹早高校の思い出

福岡 杉夫 高校22回生（筈70回生）

竹早高校で過ごした三年間こそわが人生における至福の季節(とき)であった。伝統ある校風に生まれつつ、敬愛する恩師や、兄とも慕う先輩方と過ごした日々、理想の未来を熱く語りつつ、共に真理の追究に励んだ友人達を思うと、今でも懐かしさに涙ぐんでしまう。『美しい十代』を口ずさみつつスキップで通学する我が姿は青春そのものであったことだろう。

残念ながらこの数年間に強い麻酔をともなう手術を繰り返し経験したせいか、記憶の一部を失い、具体的な高校生活に関する記憶は空白である。竹早同窓の友人と会う度に当時の話を聞こうとするのだが、彼等は記憶を失った小生をからかい、あること無いこと偽りの記憶を私に吹き込もうとする。

曰く「お前は親からももらった教科書代を使い込んだため、まったく教科書なしで授業を受けていた」「制服では入れてくれないので、理科の実験で使う白衣を着込んで大塚の雀荘に入り浸っていた」「何かといえばギターをかき鳴らして歌おうとする下級生を〈馬鹿の達郎〉と呼んでいじめていた」「“ウイーン”という喫茶店に居座り、マッチ箱をはじく賭けで小遣いを稼いでいた」「×××と△△を同時

に飲んで意識朦朧となり〈汀〉から叩き出された」云々。私を騙したいならもう少し気の利いた話に仕上げたて欲しいものである。彼等は世間の顔色を伺いながらオドオド暮らしている小市民だが、若かった日々については無頼を気取りたいのか、自分たちについても「上級生を屋上に呼び出して、学校群制度以前に入学した低能のお前らに俺たちを仕切れると思っているのかと脅してやった」「全校集会で教師に土下座を迫った奴もいた」「新宿高校の番長と決闘した」等々嬉しそうに語る。かと思えば「講堂裏の演劇部の部室で女生徒と▲▲▲した」などととんでもないことを言う人間もいる。何を言っておるのか！そもそも当時は男女別クラスでもあり、廊下ですれ違いざまに男子生徒と目が合った女生徒は顔を赤らめて小走りに逃げ去ったものである。最近のお手軽な女子高生とは違うのである。

悪意を持って私の記憶を塗り替えようとするような奴らとは、還暦を機会に今後付き合わないことにしたいと考えているが、聞くところによれば、この文集の編修責任者もその中の一人だと言う。ここまで綴ってきた私の文章も改竄されてしまう可能性が大だろう。文責は一切負わないことをお断りしておく。

バリストの夜

丸山 真二 高校22回生（筈70回生）

バリケードストライキの当日、新宿中央口の通りを学校のほうへ曲がった喫茶店に集合した私たち5～6人（決行時間を決め、他の生徒とも連絡を取る予定）のグループの中で、宿直の用務員（伊藤さん）をどうするかの話となった。

40年以上経ち、記憶が曖昧になっている部分があるが、「縛っておけばよい。殴って縛る」等々の話となり、結局は出たところ勝負。バリスト自体は、もう少しは方法等を計画してはいたが、教師の使い込みに端を発した抗議もラチがあかず、決行となった。その収束方法は具体的に考えないまま動いた部分があり、警察・関係個所・連絡を絶つ事も

当日??

話の流れで私とその担当ということになり（1名で説得をするということに…

面識は当然あり、普段も挨拶、会話はしていたものの、時刻は夜十時過ぎ。どのように切り出すかが問題だと思ってあれこれ考えながら用務員室へ。周りは静かだが人の動く気配は察せられるので、早く行かなければと逸るばかり。気持が顔に出ていると思うが「何かあったの?」「今日、バリストを決行します」最初の会話はこの程度だったような気がする。

あとは何を話したか覚えていないが、ジュースだか何か

をご馳走になりながら色々話をしたことを覚えている。そうこうしているうちに敷設が完了したらしい。私が戻ってこないことでバリケード組が心配して顔を出したことでそれが判った。

それ以前、竹早でも授業が正常に開講せず、新宿高校間借り、汚職問題は中途半端、それを打開するために行ったつもりが当時の学生運動の影響も受け、微妙に問題が変わっていったような気がする。

進学を目指し高校に入学、学校群の組み分け、優秀な生徒

が入学したことの教師の意気込み、その割には汚職等での不始末、生徒は黙って教師の言うことを聞け（女子高はそうだったのかな??）

小石川高校に入学していればどのようになっていたか。60歳の節目でつい、あれこれ考えてしまいま



思い出の美術館

福田 健一 高校22回生（筮70回生）

それは数学の授業だった微分法のはじまりだろう。「この値をどんどん小さくしていくと無視できるのです。」と黒板の前の教師。私は手を挙げた。「先生、どんなに小さくても『無視できる』というのは数学的でないのでは?」。ところが教師は意外な顔をして答えた、「君はトーダイに行きたくないのかね?」。

この瞬間に、自分の中で何かが崩れた、というより腑に落ちたといった方が良いだろう。それから授業に出ることはなかった。非数学的な数学、歴史の見えない歴史、幼稚な国語の授業に出ても何の意味もない。結局「意味」は自分で見つけるしかないのだ。

教室には行かずに美術室に籠ってデッサンを始めていた。ただ白いだけのギリシャの彫像を前に、木炭紙に向き合う。取り立てて絵を描くことが好きなわけではなかった。ただ、何かに集中していないと耐えられない。一カ月くらいすると小野先生が、「君には本当にこう見えるのかね? 君の目はどうかしてるんじゃないの?」と言って、木炭を取ってガシガシガシと描き直してくれる。「福田君、石膏像の向こう側を描くんだよ、向こう側を! 向こうに手が入るように!」。五円玉に糸を通して垂直をはかったり、定規をすかして石膏像を見たり、自分では正確に描こうと思っていろいろ試してみるのだが、結果はまた「君の

目は・・・」の繰り返しだった。

一枚目のデッサンを描き上げるのに、いや諦めるのに半年かかったと思う。小野先生は、いつも背後から覗き込んで、「うん?」とか「あれれ!」とか、そして時々ガシガシと描き直す、の繰り返し。何も見えていない、自分が何をやっているのかすら見えない、という気持ちがいづももあった。どんなに繰り返しても終わりのない作業をしているようなものだが、不思議と充実した時間だった。

たぶん一年くらい経った冬休みのこと、授業には出なかったが美術室には毎日通っていた。小野先生がまた後ろから「福田君、ちゃんと描けてるじゃないか。ほら、君のデッサンの石膏像のうしろに手が入るだろう!」と言ってくれた。測量器のような道具を使って正確に描こうという考えはずいぶん前にあきらめていたけれど、自分では描き方がどう変わったのかほんとうはよくわからなかった。小野先生に言われて、初めて自分の描いたデッサンが見えた。にわかに憑きものが落ちたような思いがした。目の前の木炭紙だけをいくら見ても像は描けないのだということが、何となく頭に浮かんだ。デッサンという孤独な作業が、世界への手がかりになるというふうな自信もなかったが、美術室での一年が私のものの見方を大きく変えてくれたことは確かである。



「戦場のピクニック」—1968年の竹早高校演劇部

橋本 和夫 高校22回生（筮70回生）

この写真は1968年秋の文化祭で竹早高校演劇部が上演した、フェルナンド・アラバール作・若林彰訳「戦場のピクニック」の終演後に撮影したものである。卒業アルバムに掲載されたものをスキャンしたため、かなり荒れていて一人ひとり判別出来ないで姓名（役名）を記す。後列は左から神野義久（衛生兵）、後藤和夫（ゼボ）、橋本和夫（ザボ）、長澤一郎（衛

生兵）、前列左から白井啓介（テパン氏）、金田（旧姓）佳子（演出）、日出島（旧姓）恵子（テパン夫人）である。

1967年4月に竹早高校に入学し演劇部に入部した私は、その年の文化祭に3年生部員の石渡清が書き下ろした「アクシデント」という劇の稽古に入り、夏休み中も続けた。内容は、シナリオが手許にないためうろ覚えではあるが、中年に差し掛かった男が交通事故を契機に嘗ての若い頃の自分たちを取り戻せるか、という煩悶を抱く物語である。決して難解な劇ではなく、事故で無意識のうちに夢で出会

う少女から若さと勇気を教えられるという物語だ。しかし、9月に入り竹早祭10日前になり、演劇部顧問から上演禁止を通告された。内容が高校生らしくないというのだ。当時の竹早高校の校風については他の執筆者に譲るが、入学以来、大学受験だけを目的とした教諭への絶対服従、時には鉄拳を以て生徒に対峙するという校風にあっては、内容がどうのというより顧問の決定に反抗しようとは夢にも思わなかった。しかし、これまでも、そしてこれ以降も全く検閲らしきこともなく上演してきたのに何故この脚本だけが、という思いは未だにある。文化祭までの10日間で既演の台本を選び、なんとか文化祭は上演出来た。出演者は2年生の田口道子、松丸直樹、鈴木洋次、1年生は西村純子(写真枠外)それに私であった。それ以降、この「戦場のピクニック」に至るまで、私達は2カ月に一回という高校生としては異例の速度で学内公演を催して行った。高校生演劇定番の木下順二「夕鶴」他に、ジョルジュ・フェドウ、チェホフ、宮本研、等々を上演した。

演劇部の創始者は緒形拳で、新国劇の島田正吾、辰巳柳太郎への強い憧れから創部したと、創部時顧問だった古文担当の学年主任から聞いていた。部室は東京学芸大附属中学校と同居していた校舎の講堂の裏、本来ならばバックヤードであるべき通路を仕切って使っていた。そこには、創部以来の貴重な写真、台本、日誌などが保存されていた。舞台写真は再演目の際に大いに役立った。また、日誌には先輩達の高校生活や演劇活動が偲ばれ、読み物としても面白かった。1969年新宿高校への移転時も、それらを運んで行った。しかし、卒業後の小石川新校舎へ再移転の際に全て破棄され、現在では残っていないと在校生から聞いた。

世界的に若者たちが既成社会への反乱を起こしていたこの頃、演劇界でも新劇よりも寺山修司、唐十郎などのアンガラ演劇と呼ばれた劇団が市価を高めていた。新しいなものかを私達は求めていた。そこで出会ったのが「フェ

ルナンド・アラバール戯曲集」だった。2、3の上演劇団が巻末に記されていたが、その中にはアンガラ劇団もあった。作者フェルナンド・アラバールはスペイン領モロッコで1932年に生れた劇作家で、パリでの初演は1967年、日本語訳初版は1968年、私達は日本語訳が出版された直後に上演したわけだ。

爆音が響く戦場にいる兵卒ザポのところへ両親、テバン夫妻が突然ピクニックにやって来て息子とピクニックを始める。そこへ敵兵ゼボが現れる。両親と一緒にピクニックを楽しもうと、ザポを諷め4人は楽しく宴を催す。たけなわになって、4人はパソドブレを踊る。そこへ機関銃が響き4人は倒れる。死んだ4人の遺体を衛生兵が担架で淡々と運び去り元の戦場となり、幕が下りる。戦争に対する強烈なアイロニーを持ったこの作品は、現在でも不条理劇としてアラバールの代表作である。ゼボとザポはお互いが兵士となった経緯を語る場面では、二人ともある日突然招集され、いやいやながら戦場に送られたと語る。テバン氏は、「恐らく同一人物が二人を戦場に送り込んだのでは」と推理する。現在の内戦、対テロ戦争という仮構を考えると、不条理劇と一言に片付けるには、あまりにリアルである。現在、世界中の戦場では日常の中の戦争、戦争の中の日常がパッチワークのように縫われているのである。

蛇足ではあるが、当時の演劇部顧問、創部当時顧問の両教諭は、竹早高校紛争の発端となった「リベート問題」で懲戒免職となっている。

2012. 1. 7(文中敬称略)



「あの頃の記憶」

井垣 真理 高校22回生(筈70回生)

昨年ブッカー賞を受賞したジュリアン・バーンズの小説は「記憶が事実と一致するとは限らず、歴史とは、生き残った者たちのそうした記憶によって出来上がる」というテーマで、印象深い作品でしたが、40年以上昔のことになってしまった「あの頃」を振り返ろうとすると、忘れてしまっていることの多さに驚かされます。

2年生の後半からだったでしょうか、溜まってきていた長年の学校運営上の膿のようなものが出始め、3年生の夏、校舎建て替えのために新宿高校の旧校舎に移転する頃には、一気に学園紛争の嵐に我が校も巻き込まれたのでした。巻き込まれたというよりは、それぞれの場所で起こるべくして起きたつむじ風のひとつだったのかもしれない。

当時の私といえば、雑誌乱読の日々。寺山修司を、サリンジャーを、三島を、マンをただただ読み漁り、ひたすら活字の世界を遊泳しているような高校生でした。情熱的に社会変革を論じ行動を起こそうという若い動き、現実世界で起きている嵐を、何やら幼いもののように捉え、素直にはうなずけず、斜に構えているところがありました。

「教師に期待しすぎではないのか……？」などとうそぶいてみたり、一方で、先生方を信頼したい気持ちもどこかで持ち…。それなりに大人のつもりでいたのですが、今思えば、たぶんすべてが想像の世界で完結してしまうだけの、頭でっかちな子供だったのでしょ。

そんな一歩退いた醒めた思いではいたものの、友人たちが何をしようとしているのかは見届けたく、受験勉強は二の次で、毎日のように開かれる集会へと、新宿校舎に通い続

けたのでした。

新宿への移転前の6月に開かれた竹早祭のこと、「天国」と呼ばれたプレハブ校舎でのカジノ(!?)のこと、演劇部の自主公演(チェホフの「煙草の害について」でした)を観たり、一学年下の山下達郎氏等のバンドでビートルズの「Get Back」や「Don't let me down」を聴いたのは、いつのことだったのでしょうか? 同じビートルズでも「White Album」中の「I will」などという、ちょっとセンチメンタルな曲の歌詞を書き写して持ち歩いたこともありましたが。Eさん、Fさん、Rさん……みなさん当時を思い出されることはありますか? 決して穏やかではなかったあの頃を皆さんは、どのように記憶していらっしゃいますか?

「行動者」ではなく「いささか子供じみた観察者」であった私の記憶は、予想以上に細切れで前後関係もさだかでない

なっています。そんな一つひとつのあやふやな思い出を、下校時に流れたドボルザークのメロディと、ジョン・レノンの声がかろうじてつなぎ合わせてくれ、私の歴史の1ページは浮かび上がってくるのです。



自由とは

松井 道夫 高校23回生(筈71回生)

私たち23回生は、大学紛争真っ盛りの1968年に竹早高校に入学した。自らの意思とは無関係に、入試合格者を小石川高校と竹早高校に振り分ける学校群制度の2期生だった。一年生の冬に東大安田講堂事件があり、二年生の秋には高校紛争の発火点ともなる全学ストを経験、登校しても授業がない「天から降って湧いた自由」を手に入れたのだから、皆自由気ままに高校生活をエンジョイした。学生運動に加わる者、哲学・文学に没頭する者、学外に逃げ場を求める者、予備校の補習授業に通う者など様々で、結果的には自律とは何かを考えるきっかけを我々は与えてもらったのだと思う。カントの言葉を借りるまでもなく、自律的人間にしか自由は与えられない。そして自由には責任

が伴う。他律的自由など存在しない。高校紛争がもたらした環境が何にも勝る教育の場だったとしたら皮肉なものである。その中で私は、美術室に籠って、大好きな美術教師と一緒に黛ジュンの「雲にのりたい」という曲をぼう々と聴いていたものである。優秀な学友が多かった。自身の未熟さを強烈に意識する中で、私は「人は人 吾は吾なりとにかくに 吾行く道を 吾行くなり(西田幾多郎)」という人生のスタンスを得たような気がする。多感な時代の経験は、それがどんなものであれ、その後の人生に決定的な影響を与えるものである。



揺れた一年

薩田 須美子 高校24回生(筈72回生)

東大安田講堂事件で明けた1969年。1月19日の封鎖解除直前の15日にヘリコプターが旋回する中、受験前最後の模試を受けたのを覚えています。異常な世相のなか、高校生になったらなで待ち受けていたのは、竹早高校内での紛争でした。補講をめぐる不明瞭な会計処理に問題は端を発していることがわかりましたが、その後の進展にはついていけませんでした。「生徒権宣言」を目標に議論を重ねる年代の高校生がいやに大人に見えたものです。7月には新宿高校の旧校舎へ移転しての仮住まいが始まりました。新宿駅南口からの登校路は、現在ではファッションな店が並ぶ通りに変貌していますが、当時は、し尿の臭いが立ちこめた退廃的な道でした。

今は死語となった「順法闘争」の影響で、のろのろとしか動かない当時国鉄の満員電車での決死(?)の通学体験もしました。

今では考えられないほど、若者だけでなく、社会が闘争的であったのでしょうか。そのような中、夏休み直前に世界の注目を一点に集めた出来事がありました。7月16日に打ち上げられたアポロ11号月面着陸です。衛生中継放送を観るため連日、夜中に家族でテレビの前に座り、アームストロング船長をはじめとする3人の宇宙飛行士とNASAとの英語のやり取りと、それにかぶった同時通訳の西山千さんと鳥飼玖美子さんの声に耳を傾けていたことを、今でもはっきりと覚えています。

それまで、国際会議という限られた場で行われていた同

時通訳という職種が、テレビという媒体を通して一般の庶民に認知されたのはこの時だと思っています。学校で授業が正常に行われていなかったおかげでこの世界的イベントに集中することができました。語学を専攻しようと決めた大きなきっかけだったことも確かです。

授業も満足に受けなかった高校一年目でしたが、先生とはよく話をしたように思います。また紛争の結果となりますでしょうか、2年生から第2外国語としてフランス語を選択することができたり、制服を着なくてよかったり、予想もしていなかったアクティブな経験をする事ができ

ました。

もう40年も前になってしまいます……当時のことは何とも懐かしく思い出されます。ただただ時の経つ早さに驚きつつも、「まだ若い」と自分に言い聞かせながら毎日を元気で過ごしています。



私の記憶に残る竹早紛争

大森 義宏 社会（昭和44年～昭和50年）

私の人生の中で、空襲や敗戦に次ぐショックな体験がこの竹早紛争だ。ご依頼によりその一端を記してみる。

東大紛争に代表される大学生の安保粉砕を叫ぶ暴動は、段々と高校生にも波及しつつあった。昭和44年春、私が着任して1ヶ月、竹早も遂に火を噴いた。しかしそれは他校とは少し質を異にしていた。というのは、5月に都教委が竹早教職員の3分の2を処分した。理由は、修学旅行などで業者からリベートを受け取ったという汚職に対してだった。

新聞に載ったその日、校長は説明と謝罪の為の生徒集会を開いた。生徒達は説明に納得せず集会は荒れた。そして竹早紛争は政治運動というより対教師不信任という形から発展していった。だから、学校側としては強く出て弾圧することも出来ず、理論で説得する方法も持たなかった。生徒側から投げられる罵詈雑言に耐えるしかなかった。私も呆然としているだけだったが「我々の前に土下座して謝れ」という罵声には思わず反応してしまい、立ち上がり、マイクを握って「君達的心情は分かるが、人間は皆尊厳なる人格を持っている。どうかその尊厳を犯すような要求は止めてくれ」と叫んでしまった。自分は新任でリベートには関係ない。彼等は私に対して求めたのではないと知りながらも、同じ教師として激しい屈辱を感じたからだ。

この私の発言に対して生徒側からは「人権侵害などは我々の方がもっとひどい仕打ちを受けてきたんだ」という反撃があちこちから飛んで来た。これに対して私がどう対応したか、そしてこの集会がどうやって幕を下ろしたのかを、今は思い出せない。

こんなでしゃばりをした為、その後生徒の集会や交渉などの際には押し出され、教師団の前面に立つことが多くなった。もちろん一番苦勞し厭な思いをしたのは3年担任団

や生徒指導部であり、私はその補佐役に過ぎなかったが、バリケードの時などには宿直したり、中に入って説得交渉をしたりした。

なお生徒権宣言については、当然ながらその精神は認めても、内容・事項のすべてまでは校長は認めていない。内容の詰めについては、私が生徒部長として「教える者と教えられる者の立場の違い」を明確にして、48年度の生徒総会に於て完結したものである。完全承認を求めた生徒にとっては不満もあったであろうが、公式に校長が認めることは、法規上とても出来るものではなかった。



気持ちはわかってもらってもバリストにはついてゆけない。大学受験まであと4か月……。 (紛争中の東京・竹早高で)



第4回 篁会特別セミナー報告

2011年7月14日(木)

昨年7月第2週に、高校2年の総合学習授業の一環でセミナーを開催しました。会報(20~22号)に過年度の紹介があります。以下、本稿では第4回につき報告いたします。(WEBで会報をご覧ください。)

●【1.重点目標とその達成状況】

1. 生徒目線のセミナー

「生徒のニーズを聞き、それらにより即した企画の実施」というコンセプトは前回と同様でした。生徒への事前のアンケートと受講希望調査を実施し、それらをすべて話し手にお届けして、今の高校生の感じ方・ニーズを丸のままお伝えしました。話し手の方々が構成・話し方を考える参考になったそうです。

2. スムーズなセミナー実施

司会を学校の先生にお願いしました。これでスッとセミナーに入れたようです。意外に大事なことのようです。

学校の設備にPJ-CART(ピージェーカート)というパソコンとプロジェクタのシステムがありますが、トラブルを極力避けるために、パソコン使用の講師に事前講習時間を設けました。篁会ではPJ-CARTの操作マニュアルを作り、講師にご自身のPCの持参をお願いしました。

他に各講師の様々なレジュメ・パンフなどの資料を扱う事務のスキルも向上が見られました。

企画&レビューの年度サイクルの明確化も大事な点ですが、前年同様、工程表を作成し、年間のPLAN,DO,SEEを行いました。

●【2.チャレンジ項目とその達成状況】

質的向上の新たな試みとしては、セミナー内容をより詳細に紹介するパンフレットの作成・配布があります。もちろん、おもな項目はこれまでも生徒には示しておりましたが、切り口、そのお話の魅力などを詳細に盛り込み、4ページ程度の冊子にしました。生徒の選択の際に、大いに参考にされたようです。聞きたいという気持ちを大事にして、曖昧なまま参加することが少なくなるようにとの思いです。

もう一点、その後の生徒へのフォローアップを試みました。本年は、セミナーのお話を十分に練って頂いたこともあって、アンケート記入時間も直後に5分間を取ることができました。そこで、一人ひとりの記入もして頂きました。それに対して各講師が生徒一人ひとり

にコメントをフィードバックいたしました。大変な労力にも関わらず、みなさん快くお引き受けいただいたことは素晴らしいことでした。このほかでは、

- ・講師低年齢化に取り組む → 平均3回生若返り
- ・ビデオ撮影講習の実施 → 全講義撮影
- ・講師相互の交流 → 昼食懇談会実施
- ・新会長の視察 → 一部講義への参加

など、実現できました。詳しい内容を本ページ下段の「実施状況まとめ」に記載しました。実務課題も幾つか出ましたので記載しています。次回の実施に活かしたいと考えます。

●【3.第4回開講セミナーの概要】

さて、今回、大変魅力的な18講座が用意できました。文系、理系、広い分野の興味、違った切り口の興味など生徒の希望に沿い、さらにそこを出発点にして工夫を凝らしたものです。内容は次のページの表にまとめております。限られた紙面では、主な項目だけになり魅力の一部であります。是非ご覧ください。

生徒から深い内容を求められる講座について、2012年は通常の実施のほかに土曜日を利用し拡充して行うアイデアがあります。学校側と可能性を探る検討を、セミナー後にスタートしました。知的な好奇心を刺激し、広がりを感じられるものにしていきたいものです。

実施状況まとめ

- 後援報告
 - 篁会が各校の先生と協働の企画力のもとで、7月14日に行き届きを実施した
 - 会場による事前の企画説明会も午前中も行って頂いた
 - 事前に事前アンケートを行い、生徒目線の企画内容の検討と調整を一通り済ませ、当日もスムーズに、一方で興味ある講座を確保した。生徒への事前アンケートは、話し手に好評でした。
 - 講師、プロジェクタやビデオ撮影講習、他講師のサポートも準備が整った
 - 配布資料のトラブルフリーを日新し、高校の協力もあり確保できた
 - 会場も好評でした。アイデアも入り、3校で開催した。一校ずつだった
 - 学校側と事前の打ち合わせも、事前の打ち合わせで実施
 - フォローアップの企画も、前年よりより準備が整った。今後にも活かしたい
- 今年の目標への取り組み(ストレッチゴール)
 - 生徒さんへのフォローアップの企画
 - 本年は、その後の各講座のコメントも生徒一人一人にフィードバックする
 - 開催の場を拡大して、開催の場を平均的に拡大する
 - ビデオ撮影講習の実施/全講義撮影
 - 講師間の交流から昼食懇談会実施
 - 新会長の視察/一部講師(タカシタカ)の視察/企画の検討
- 実務課題
 - さらに事前のプレゼンテーション/高学年に合わせた話し方をさらに取り入れること
 - さらに企画の進捗の確保
 - コンビットのさらなる共有/より明確なため、幅広い参加者の確保
 - 応用編、土曜日などでの開催可能性の検討
 - 参加者のためのフォローアップの取り組み





番号	話し手	内容	サブタイトル・主な内容
1	金杉憲治 高校30回生(筈78回生) 外務省本省大臣官房課長	国家公務員の仕事 (外交官の仕事/国際機関の仕事)	国家公務員・外交官・国際機関の仕事とは 国家公務員になるには 苦労/やり甲斐
2	大原章博 高校29回生(筈77回生) 東京都 中学校副校長	中学校教師の仕事	中学教師の仕事 大学から教師を志すまで やりがい、大変さ、教師に期待されること 進路決定までに考えたこと、きっかけ 教師生活で強い印象を受けた出来事
3	田沼令子 高校29回生(筈77回生) 映像翻訳者	翻訳の仕事	映像翻訳とは、外国語のドラマやドキュメンタリーなどに字幕を付けたり、吹き替え用の台本を作ったりする仕事です。実例を交えながら、この仕事の面白さや苦労をお伝えします。また、出版翻訳・実務翻訳・通訳などの語学を生かした仕事に就くための心構えや、具体的な方法についてご紹介いたします。
4	鈴木陽子 高校29回生(筈77回生) 音楽家・ボーカル	音楽家の仕事 ”夢を追い続けて・・・”	・音楽との出会い ・仲間との出会い ・夢の実現 ・新たな目標に向かって
5,6	伊藤耕司 高校23回生(筈71回生) クラシック音楽家・チェロ奏者 多田逸左久 高校30回生(筈78回生) クラシック音楽家・ファゴット奏者	音楽家の仕事	音楽への憧れ 夢を叶えるには 音楽家になるまでの道のり アマとプロ 音楽を仕事にしようと思う人へのメッセージ
7	木村民子 高校19回生(筈67回生) 編集者・元雑誌記者	編集者・雑誌記者の仕事 ～本を出すということ、伝えるということ	本の出版・編集の仕事はIT社会においても価値ある仕事です。本を出版し、メッセージを伝えるということの面白さや、意味を考えます。 ・編集者・雑誌記者の仕事とは・どんな能力や適性がよいか・仕事の面白さ(と苦労)・女性の仕事としての側面・子どもの本の重要性 ・社会的な影響力
8	仲尾啓子 高校29回生(筈77回生) 大手化学 分析グループマネージャー	女性研究者・技術者の仕事 ～化学企業の場合	分析の仕事とは 女性に適した側面とは 女性研究者としての生き方 家庭生活と仕事 女性に向けた仕事 感動したこと
10	鹿住倫世 高校34回生(筈82回生) 私立大学教授	公務員と民間企業の仕事	お茶の水女子大学をはじめとする大学生への講義をベースに、公務員と民間企業の違いを浮き彫りにする講師の人生での様々な職業経験・そのときの考えをお伝えする
11	泉美知子 高校19回生(筈67回生) 一級建築士インテリアデザイナー 「瑞木工房」	建築・デザインの仕事とは	建築設計の仕事とは 瑞木工房の作品をみていただきながら仕事の内容、流れを紹介 建築関連の資格と仕事について 建築士(意匠、構造、設備)、インテリアプランナー、インテリアコーディネーター 建築設計の醍醐味(と苦労)
12	西海真理 高校20回生(筈68回生) 演劇・俳優	俳優の仕事	自分の体で表現することの意味・魅力 夢を叶えるには 演劇者・俳優になるまでの道のり アマとプロ 演劇を仕事にしようと思う人へのメッセージ
13	秋元哲夫 高校29回生(筈77回生) 国立医学センター研究開発部長	医師/医学研究者の仕事	医者を目指すまで 自分が医学部受験に目覚めた瞬間とは 医学の専門分野の特徴・放射線医学(がん治療)とは/そのやり甲斐と困難さ 米長永世棋王(将棋)との出会い 主治医として
14	飯塚均 高校29回生(筈77回生) 鍼灸治療家 エステティシャン講師	治療家の仕事 (美容エステ/鍼灸指圧)	治療家とは(美容エステ/鍼灸指圧) ～治療は医者ばかりの仕事ではない。どうしたらエステティシャンや治療家になれるか ～誰にでも道は開けている。関係資格を活かすには ～エステティシャン・スポーツ・トレーナー 仕事の楽しさ・つらさ 女性の志望者が増えている(美容エステティシャン) エステティシャンへの道を中心に話します
15	山地洋子 高校18回生(筈66回生) フリーアナウンサー	アナウンサーの仕事(女性編)	アナウンサーの仕事とは アナウンサーになるには 面白い点、苦労したことなど 仕事の発展の可能性は・・・ 女性の仕事としてみたら
16	志賀利一 高校29回生(筈77回生) ヘルスケア機器研究・開発戦略 開発部長	企業研究者の仕事 ～企画・研究・開発	企業の研究者を目指すまでの道のり きっかけ、強い印象を得た出来事 研究開発とはどういう価値があるものなのか、その大変さは何か 研究開発が企業を支えるメーカーのビジネス メディカルエンジニアリングの開発プロジェクトの雰囲気はどのようなものか 企業研究者の日々
17	鈴木宏子 高校23回生(筈71回生) 税理士・米国会計士	税理士・会計士の仕事	税理士の仕事とは 公認会計士の仕事とは 資格を活かすには 仕事のおもしろさ 女性とキャリアについて
18	水田茂夫 高校23回生(筈71回生) 資産運用会社経営	留学と海外への就職	留学を考える 外国の会社に就職をする/外国に永住するには 日本人と外国人 英語だけは勉強しよう
19	岡田晃明 高校29回生(筈77回生) 大手小売マネージャー	大規模小売の仕事 ～被災地の戦士たち	大手小売ビジネスの特徴 大学教育の内容と、販売の仕事 現場に学んだこと 仕事の進め方/苦労/やり甲斐 東日本大震災の被災地で小売の方々の対応を映像でご紹介し、小売の仕事を見つめます。
20	伊藤麻沙人 高校20回生(筈68回生) 陶芸家	芸術の仕事・キャリアとは ～陶芸家の仕事	轆轤を使うこと(実演) 陶磁器のできるまで 陶芸家の暮らし

※番号9の講座は、講師急遽転勤の為、休講となりました。

●【4.セミナー後のアンケートから】

アンケートを整理した統計データから、ここでは6つ紹介いたします。まず、セミナーの実施意義については、年々支持が増加して、本年度は96%の生徒から肯定的回答がありました。45分2コマの選択を中心に、クラシック音楽と陶芸のみを90分としましたが、これも良かったようです。興味あるセミナーが2個以上の比率は90%でした。満足度は各講師の熱意と時間をかけた準備の結果と思われるが、生徒の目線にたった講義がなされ、実際に満足度が高かったようです。参考度も高い数字でしたが、自分のイメージとのギャップがあった場合や、向いていないと強く感じた場合に参

考度が低く付けられる傾向が、コメントから伺えました。考えてみると、そういうお話も進路を考える意味では、聞く価値があるかもしれません。

次の表は、2コマ選択した講座の関連を見たものです。例えば、篁82回（1982年卒）鹿住さんの10.「公務員と民間企業の仕事」と、篁78回（1978年卒）金杉さんの1.「外交官の仕事」など、事務局がお薦めした受講パターンで、集中が見られる一方、実に様々な選択パターンがあることがわかり、考えさせられました。一人ひとりの興味の切り口が多様であることが伺われました。これらは次年度の講義時間表作成の参考になります。

2コマ選択生徒に見る希望の組み合わせ

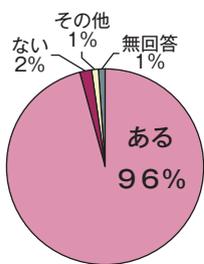
- ・表のタテヨコ1～19の数字は、セミナーの講義番号
- ・表中の数字がその組み合わせを選んだ人数（=度数）

	1	2	3	4	7	8	10	11	12	13	14	15	16	17	18	18	
1	1	0	4	1	1	0	2	2	3	0	0	0	0	0	0	0	32
2	0	2	4	1	4	4	4	4	0	0	0	2	2	3	3	0	38
3	0	0	4	1	1	1	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	34
4	0	0	0	4	2	1	2	3	3	2	2	1	1	1	1	1	18
7	0	0	0	0	2	4	8	4	3	2	4	1	1	4	4	0	32
8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	1	1	0	7
10	0	0	0	0	0	0	2	4	4	4	0	0	2	4	4	0	18
11	0	0	0	0	0	0	0	4	3	1	1	1	1	4	2	0	18
12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4
13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	2	0	1	2	2	0	15
14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	1
16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	3	0	0	7
17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	3
18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	3
18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
																	233

- ・いくつか人気のある組み合わせ（色をつけたカラム）があった。
- ・集中の一方で非常に多様な選択がされている様子が見られる。
- ・統計は、比較的集中度がある組合せの講座（1, 3, 10, 13, 18）



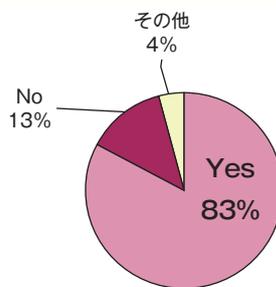
セミナー実施意義



2009年 70%
2010年 93%
2011年 96%

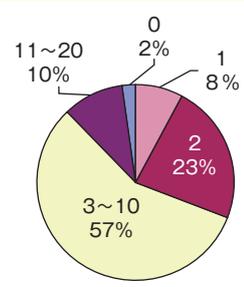
2011年は“実施意義”に広い生徒層から支持があった。

講義時間：45分は適当か



講義時間は45分が支持された。
(cf.2010年 2011年とも83%がYesと同じポイントを維持した)

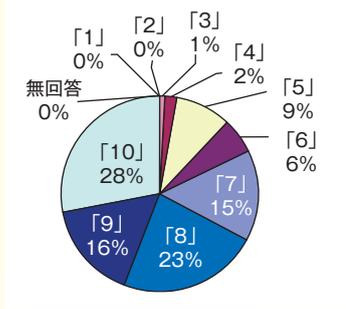
興味のあるセミナーの数



有効回答中2個以上が90%とセミナー開講講座の内容は生徒の興味にマッチした。

満足度

「1」かなり不満～「10」大満足

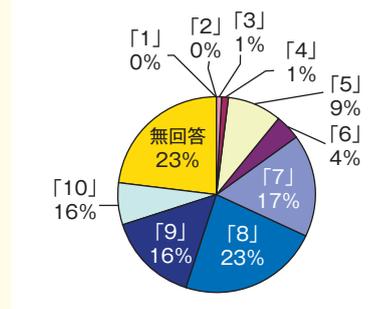


全平均 7.98

セミナーのお話の内容については、大人数のマス教育の制限のある中で、かなり支持があった。

参考度

「1」参考にならなかった～「10」参考になった



全平均 7.52

参考度：人それぞれで異なった結果

- ・ 事前に持っていたイメージと講師の話のギャップがあることがコメントから伺われた。
 - ・ 自分に向かないと感じた場合に参考度が低くなる傾向有り。
- (参考度の低いセミナーが、開催意義がないとはいえない内容とも考えられる)

最後に、先に触れた生徒からのアンケートのコメント例を紙面の許す限りでお示しします。どの生徒のコメントも示唆に富む、素直なもの

で、感じ方が伝わってきます。自分の言葉で書かれていることがとても印象的でした。事務局も何度も読み直しました。

生徒の評価・感想・講師からのレスポンスから 「外交官の仕事」 から

質問6 良かったところ(感想は9.へ)	質問9 感想	講師からの受講生へのレスポンス(メッセージへの返答)
講義がとても聞きやすかった	面白かったです。参考になりました。英語勉強しようと思いました。	外務省の仕事に関心を持ってきてありがとうございます。将来何をやるにしても、英語は大事なので、頑張ってください。
最後に質問ができてよかったです。	公務員に興味があったのですが、高卒か大学を出た方がよいかよく分からなかったので、話を聞いてよかったです。英語頑張ります。	大学を出ておいた方が、将来の可能性が広がります。英語が出来ればさらに可能性が広がるので、頑張ってください。
公務員の仕事やなり方についての話が参考になった。詳しく説明があって良かった。	すごくためになりました。公務員という仕事にも興味を持てました。	公務員の仕事に関心を持ってきてありがとうございます。やりがいのある仕事なので、チャレンジして見てください。
外務省についてのお話が参考になりました。	海外で働くことはすごいと思いますが、日本のことも考えて仕事をしなければいけないと思って、外務省で働いたりすることは大変そうだと思いました。でもすてきなと思いました。	外務省の仕事に関心を持ってきてありがとうございます。将来何をやるにしても、英語は大事なので、頑張ってください。
海外渡航経験がなくても初めは大丈夫であるというお話	東日本大震災への復興支援や各国のお偉いさんの方々の翻訳など国際的に幅広い範囲で活動していることが分かり、なおのこと、興味が湧いてきました。	外務省の仕事に関心を持ってきてありがとうございます。やりがいのある仕事なので、チャレンジして見てください。
外務省について今まで知らなかったことを知ることができた。	今まで、国家公務員の仕事に実感が湧かなかったのですが、今回はとても参考になりました。	公務員の仕事に関心を持ってきてありがとうございます。やりがいのある仕事なので、チャレンジして見てください。
仕事の内容が良く分かった!!	外務省はどんな仕事をするところなのか分からなかったけれど、今日はとても良く分かりました。!! なるには大変そうだけれどとてもカッコいい仕事だなと思いました。国家公務員は以前虎ノ門に行ったときに興味を引かれて憧れていました!! なのでは是非なってみたいです!!	外務省の仕事に関心を持ってきてありがとうございます。もっと知りたければ、外務省のホームページも見てみてください。
最近有った出来事について話してくれたこと	すごく参考になりました。公務員といっても具体的に何をするのか分からなかったもので、話を聞いてよかったです。	公務員の仕事に関心を持ってきてありがとうございます。まずは英語の勉強に力を入れてみてください。
外交官になるために留学すること	外国語が話せれば”道”が増えるということ、とても納得しました。これからは英語を頑張ろうと思います。	外務省の仕事に関心を持ってきてありがとうございます。将来何をやるにしても、英語は大事なので、頑張ってください。
公務員は職務以外の時間は犯罪以外何をしても可ということ、週休二日だが、有事の際はなし、ということ	とても参考になりました。わたしは、現在吹奏楽部に所属しており、校外の楽団にも属しております。音楽は一生続けたく、公務員にも憧れがあるので非常にありがたい講義でした。	私の娘もブラバンでトランペットを吹いています。音楽は一生続けてください。公務員との両立ももちろん可能です。
国際的な仕事に就くための方法、必要な情報を言ってくれたこと	外務省とかアバウトにしかなかったけれど、詳しく分かるようになったからよかったです。	外務省の仕事に興味を持ってきて、ありがとうございます。国際的な仕事は色々ありますから、頑張ってください。
講義の内容が分かりやすく、プリントやパンフレットもあった点が良かった。	全体の仕事を大まかに説明して頂けて、よく分かりました。外国に少し興味がわきました。一番大変だったことには少し驚きましたが、そんな中でお仕事をなさっているなんてすごいと思いました。是非これからも頑張ってください。	外務省の仕事に興味を持ってきて、ありがとうございます。国際的な仕事は色々ありますから、頑張ってください。
主に外交官の仕事はどんなものか、何が求められるかなどが参考になりました。	本当に外務省で働いている方の話が聞いてとても参考になりました!この短時間で簡潔で分かりやすい説明をありがとうございました!!	外務省以外の国家公務員の仕事についても、色々な省庁のホームページに参考となる情報が出ていますので、見てみてください。

生徒の評価・感想・講師からのレスポンスから 「中学教師の仕事」 から

質問6 良かったところ(感想は9.へ)	質問9 感想	講師からの受講生へのレスポンス(メッセージへの返答)
本物の職業の話をきけたところ。その道のプロの話を聞けたところ。	なかなか先生の話聞くことができないので良い体験となりました。生徒をまとめるコツ〜うそをつかないことというのはなるほどって思いました。	嘘というか自分を飾って他人に見せるということは、いつか自分が苦しくなるものだと思っています。だから素直な気持ちが大切だと思っています。
教師の本音が聞けたこと	「数が苦」→「数楽」というのがたのしそうだった。	楽しい数学の授業を常に目指していました。一つでいいから、発見したり、理解したりして自分の授業を終えてほしいと思っていました。そのため、教科書以外のことをずいぶん話しました。
内容はとても参考になりました。	質問の際、とっさに言葉がでなかったところを助けていただきありがとうございました。とても興味深い話ばかりでした。学校って様々な人がいるのに同じことを教えなければいけないから大変なんだなと思いました。	中学は特に公立ですから、いろいろな生徒がいます。だから、面白いやりがいがあるのではないかと思います。それだけ、苦労もするのですが。
中学校教師の意外だった処などを知ることができて良かったです。	話がすごく面白かったです。教師の大変さややりがいなどがよく分かりました。	どんな仕事にも、大変な部分があり、乗り越えてやりがいを感じるのではないかと思います。教師も努力しているのです。
ストレス発散について	思ったよりも面白かったです。	教師といえども、人間です。ストレスもたまります。発散方法は、どんな職業についてもひとつやふたつ持っていないと精神的につらいと思います。
全て良かった	とてもすばらしい話をしてくださって、ためになりました。自分も中学校の先生になりたいと思いました。大原先生は本当にすばらしい先生なんだなと思いました。	生徒とコミュニケーションを上手にとれる先生は、とても貴重です。自分がそんなに素晴らしい教師とは思いませんが、第一に考えています。だから「すなお」が必要なのです。
中学校の先生の本音が聞けたこと	思っていたよりも話が面白く飽きずに聞いていられた。「数が苦→数楽」・・・なんか数学の授業が楽しそうだなと思った。	数学の授業は本当に工夫しました。でも、嫌いな生徒は生まれてしまいます。せめて、自分の授業は楽しくと心がけていました。
数学の教師だったところ。教師になるためには、という話	自分も数学の教師になろうと思っているので、とても参考になったし、やる気ができました!	数学の授業は本当に工夫しました。でも、嫌いな生徒は生まれてしまいます。どう数学の楽しさ、美しさ、面白さを伝えるかを今後も考えていきたいと思っています。
楽しいところを聞けたので、教師という職業は楽しそうな職業だと思いました。	とてもためになる話ばかりでした。いろいろな話が聞けてとても良かったです。	楽しいことばかりではないのです。本当に学校に行きたくないとか、生徒はなぜわかってくれないのかと悩んだこともたくさんありました。でも、なってよかったと今でも思っています。
中学校の先生ということもあり、話が分かりやすく、内容にずっと入っていました。	学級通信のはなしがすごく良かったです。わたしは、学校の教師になりたい気持ちもあり、だけど自分には向いてないんじゃないかという気持ちもあり、すごく迷っています。今日の話参考にして、もう少し考えようと思います。	生徒に何を伝えていきたいのか、どう成長してもらいたいのか、自分の信念をもって接することができれば、心が通うと信じています。そして、人前で演技者になれることも時には必要です。
自分がもし教師だったら大変だろうなと思ったことについての解決策を教えてくださいました。	学校の教師はやりたいことのひとつだったけど、このセミナーを受けて、教師になってみたいなと思いました。	教師は、これからの日本を背負って立つ人材を育成する仕事でもあります。こんなことを言うと、大変だと思うでしょうが、人はいろいろな人と関わりを持ちながら成長していくと考えるといいでしょう。

次年度も「心に残る90分」をチームメンバーは目指します。特に若い世代の皆さま、是非、ご一緒に参加しませんか。末筆ながら、セミナー担当を代表し、竹早高校、父母と教師の会、篁会会員の講師の方及び準備に関わった理事・OB・OG・関係の方々に厚く御礼を申し上げます。

古関 恵一 高校29回生(篁77回生)



なつかしの先生



「昔、昔のこと」

本多 英男先生

保健体育
(昭和31年～昭和42年)

昭和31年4月、富山で教鞭を取っていました。突然、竹早の関校長から「入都試験に合格していませんに決まっていないのは君だけだ。直ちに竹早高に奉職せよ」と命令を受けました。「笹山先生のいらっしゃる高校ですね」と尋ねると「そうだ。すぐ退職手続きをして東京に来るように」とのことで5月半ばに赴任しました。笹山先生は私の中学時代の恩師です。時々竹早を訪ねていたの、かつての府立第二高女であり、文武両道ですばらしい学校であることはよく認識していました。

戦前、戦後のスポーツ活動は眼を見張るものがありました。戦前の体育の先生に三橋義雄氏がいらっしゃって、バレーやバスケットを学校体育に取り入れ、普及させた偉大な指導者でした。世界フリースロー選手権大会で優勝し、また個人の部では60回中56ゴールで優勝した児矢野昌子さんがいます。その時の銀のボール形のカップが体育館教官室に陳列してあったのですが、新宿高校へ仮移転した時、その価値がわからず、全部廃棄処分にしたようです。私が顧問をしていたバレー部の毎日の練習日誌も、数十年連続して保存されていましたが、これも全部捨てられてしまいました。

戦後、東京が焼け野原になったあと、焼失から免れた体育館では体操やバスケットの全日本選手権大会が催されたほど有名な体育館だったのです。それほど体育館が不足していました。昭和25年第5回国民体育大会が名古屋市で催されましたが、国体視察団を編成し、笹山先生が引率して各クラブの主将達も参加して、日本のスポーツの現状を見て回りました。私は大学生だったのですが一緒に参加したことを思い出します。

そんな伝統のある学校ですので、運動クラブは東京都でベスト8から落ちないように、最低の練習時間で能率を上げるよう選手たちと共に努力したと思います。試合では、体力的には少し劣っていても“頭を使って”が私のモットーでした。

勉強の方も、頭脳明晰な生徒たちが進学や就職で活動していました。私達が担任した生徒が、お茶の水女子大学へ23名合格した喜ばしい時代もありました。50年前を思い出しながら、あんな時代もあったんだとなつかしんでいます。今の竹早生、頑張れ！！

竹早エコー



「竹早の思い出」

椎名 敏夫

高校20回生（筈68回生）

私が竹早高校に在学した1965年から1968年頃は、米軍のベトナム北爆や中国の文化大革命がはじまり、国内では、東京オリンピックが開催された直後で、人口が1億人を突破し、沖縄返還交渉がはじまる中で、大学の学園紛争、成田新空港建設反対闘争、公害問題が起こりはじめていました。

私は、そんな社会の動きにはあまり関心がなく、毎日、野球部の練習に明け暮れ、勉強にも身が入らず、毎晩深夜放送の「オールナイトニッポン」を聴いて過ごしました。

65年のNHKの大河ドラマは「太閤記」で、我が竹早の同窓生である故・緒形拳さんが秀吉役を努められました。66年にはザ・ビートルズが来日し、日本武道館で聴衆を熱狂させました。

中学時代に、校庭が狭く野球ができなかったため、入学するとすぐに野球部に入部しました。他の部員は中学校から野球をやっており、私は練習についてゆけず、1年間は基礎体力づくりで終わりました。2年生になると下級生とポジション争いとなりましたが、結局レギュラーにはなれませんでした。夏の下諏訪で行われた合宿では、早朝から夕暮れまで練習を行い、厳しい合宿でしたが、体力と忍耐力を培うことができました。

3年生となり、秋の体育祭で「闘牛士とカルメン」の仮装行列チームが編成されました。このうち男性メンバーは、大学受験の追い込み時期にも関わらず、体育祭後も学校の近くに住んでいたメンバーの家に集まって、無為な時間を過ごした結果、そろって受験に失敗し、共に予備校に通いました。

思いどおりにならないことも多く、ほろ苦い高校生活でしたが、帰ってみたい時期です。

竹早野球部は、卒業後も国広先生を囲んで先輩・後輩がよく集まり、先生が亡くなられてからも交流が続き、定例会、先生の墓参り、還暦祝いなどで集まっており、部員は生涯の友人です。

*昨年22号で掲載された竹早エコーの鈴木一弘氏の記述で、タテ稿のユニフォームはひとつ前の代、高校10回生の代から採用されたことが判明しました。お詫びして訂正させていただきます。

学校の活動報告



平成23年度においても、笹会の皆様には竹早高校の教育活動のために、多くのご支援・ご尽力を賜りまして誠にありがとうございました。今年度も、生徒達、ならびに教職員一同、笹会の皆様に深く感謝しております。

竹早高校と笹会とは、7月に行われる笹会特別セミナーをはじめ、竹早祭でのお休み処「たかむら」、ならびに笹会教育奨学金等、この数年の間に笹会と竹早高校は着実に竹早高校の教育において堅い連携を図り、本校教育にしっかりと位置づけられてきたことと思います。

生徒達も、機会あるごとに先輩の方々の姿を直接、間接的に垣間見ながら、自分の将来の姿を想い、自己の将来に向かって、希望進路実現に努力しております。

また、平成24年3月20日には、100周年記念に設置された「夢の風」とともに、東京府立第二高等女学校の記念碑がヒマラヤ杉のある思い出の地に設置され、正門の校章をはじめ、生徒、保護者、教職員、ならびに本校を志望する生徒や保護者が、本校の正門を通るたびに竹早高校の伝統とその重みを感じることを思います。

竹早高校は、都立高校における進学指導推進校として、今年度は予備校による授業診断等がありました。生徒の希望進路実現に向けた教育に教職員が一丸となって取り組んでおります。

今後も、他の都立高校とは違う竹早として歩み続けてまいります。

- 4月 始業式 (6)、入学式 (7)、対面式 (8)、2、3年保護者会 (16,9)、健康診断 (21)、*1校外学習 (25)
- 5月 体育祭 (16)、父母と教師の会総会 (21)、竹早塾 (21, 28) 中間考査 (30,31)
- 6月 中間考査 (12)、3年進路オリエンテーション (6)、授業公開 (11) 2年進路オリエンテーション (20)
- 7月 期末考査 (4~7)、模擬試験 (8)、国際理解講演 (12) *2笹会特別セミナー (15)、進路説明会 (17)、終業式 (20) 夏季休業日始 (21)
- 8月 *3夏季合宿、*4学校見学会 (11回)
- 9月 始業式 (1)、受験説明会 (1)、1,2年課題テスト (2) センター試験説明会 (5)、竹の子祭 (8,9)、*5竹早祭 (10,11)
- 10月 *6オープンデー (学校説明会) (1)、中間考査 (21~26)、2年模擬試験 (28)
- 11月 開校記念日 (7)、*6オープンデー (体験入学・学校説明会) (12)
- 12月 期末考査 (2~7)、2年修学旅行 (13~16)、終業式 (20)
- 1月 始業式 (10)、1,2年課題テスト (11)、合唱コンクール (23) 推薦入試 (27)、1、2年模擬試験 (30)
- 2月 2年進路講演会 (10)、*7保護者のための進路講座 (18)、学力検査 (23)
- 3月 学年末考査 (2~8)、卒業式 (3)、1,2年芸術鑑賞 (22, 11) 東京府立第二高等女学校記念碑除幕式 (20)、2年進路懇談会 (22)、修了式 (25)

*1 校外学習

- 1 学年：相模湖リゾートプレジャーフォレスト
- 2 学年：羽田空港・横浜
- 3 学年：ディズニーランド

*2 笹会特別セミナー (講座名)

- 1) 建築・デザイン 2) 国家公務員の仕事 3) 音楽家の仕事 4) 翻訳の仕事 5) 公務員として働くこと、会社員として働くこと 6) 医師の仕事 7) クラシック音楽家の仕事 8) 俳優の仕事 9) 企業研究者の仕事 10) アナウンサーの仕事 11) 芸術の仕事・キャリア 12) 治療家の仕事 13) 大規模小売の仕事 14) 編集者・雑誌記者の仕事 15) 税理士・会計士の仕事 16) 中学校教師の仕事 17) 留学と海外への就職 18) 女性研究者・技術者の仕事 以上 18 講座

*3 夏季合宿 参加者：279名

吹奏楽部、天文部、美術部、箏曲部、バドミントン部、陸上

競技部、柔道部、サッカー部、男女硬式テニス部、男女バレーボール部、男女バスケットボール部、軟式野球部 以上 16部

*4 学校見学会 (11回) 参加者：1306名

平成22年度 1350名 (9回) 平成21年度 1440名 (10回)
平成20年度 836名 (10回)

*5 竹早祭 来校者：3515名

平成22年度 3838名 平成21年度 3191名
平成20年度 3163名

*6 オープンデー学校説明 (2回) 参加者：919名

*7 保護者のための進路講座 講師 お茶の水ゼミナール
○竹早塾 (8回)

参加者：1年 396名 2年 57名 3年 2名

進路状況 (合格者数一覧) 平成24年3月21日現在

○国公立大学

埼玉大学 (2)、筑波大学 (2)、首都大学東京 (3)、千葉大学 (3)、東京外語大学 (2)、東京学芸大学 (2)、東京芸術大学 (1)、東京工業大学 (1)、東京海洋大学 (1)、お茶の水女子大学 (2)、東京農工大学 (1)、横浜国立大学 (1)、埼玉県立大学 (1)、静岡県立大学 (1)、信州大学 (2)、都留文科大学 (1)、

○私立大学

青山学院大学 (17)、亜細亜大学 (2)、大妻女子大学 (3)、神奈川大学 (2)、学習院大学 (13)、学習院女子大学 (2)、神田外語大学 (4)、慶応義塾大学 (5)、工学院大学 (5)、国際基督教大学 (2)、国土館大学 (1)、國學院大学 (4)、駒澤大学 (3)、慈恵医科大学 (1)、実践女子大学 (1)、芝浦工業大学 (48)、白梅女子大学 (1)、十文字大学 (2)、順天堂大学 (1)、上智大学 (11)、昭和女子大学 (6)、成蹊大学 (13)、名城大学 (1)、聖心女子大学 (1)、清泉女子大学 (2)、専修大学 (10)、大正大学 (2)、大東文化大学 (2)、玉川大学 (7)、多摩美術大学 (2)、中央大学 (15)、帝京大学 (9)、帝京平成大学 (1)、東海大学 (3)、東京医療保健大学 (2)、東京家政大学 (2)、東京工科大学 (3)、東京赤十字看護大学 (1)、東京電機大学 (4)、東京都市大学 (4)、東京農業大学 (20)、東京未来大学 (1)、東京理科大学 (28)、東洋大学 (37)、独協大学 (5)、日本大学 (26)、日本女子大学 (6)、二松学舎大学 (1)、文教大学 (2)、文京学院大学 (2)、法政大学 (48)、星薬科大学 (1)、武蔵大学 (14)、武蔵野大学 (2)、武蔵野美術大学 (3)、明治大学 (38)、明治学院大学 (15)、明治薬科大学 (1)、明星大学 (4)、横浜薬科大学 (1)、立教大学 (30)、立正大学 (1)、早稲田大学 (26)、

○短期大学

青山学院女子短大 (1)、洗足学園音楽短期大学 (1)

○専門学校

メーカーハウス (1)、パンタンデザイン研究所 (1)、早稲田美容専門学校 (1)、HAL 東京 (1)、日本菓子専門学校 (1)、資生堂美容技術専門学校 (1)

在校生の活躍紹介



箏曲部

部長 小林 美保

私たち箏曲部は、部員数12名と、他の部活動よりは少人数ながらも、学校の文化祭発表大会や交流会などを主として活動しています。

私たちの部活が活動をしていて一番大切にしていること。

それは、目には見えないものですが、みんなとの心の繋がりで。

琴や三味線などの日本伝統の楽器を使う合奏では、西洋の音楽とは違い指揮者がいません。そのために、曲のテンポ、休符の感覚や強弱などの音楽的技法は全て自分たちで曲の雰囲気を感じ、みんなで合わせなくてはなりません。全員の気持ちが1つでないと、演奏自体がバラバラに聞こえてしまい、良い合奏とはいえないものになってしまいます。

「聞いてくださる人の心に響く合奏をしたい」との思いが常にあり、それが日々の練習にも表れています。

演奏の1回1回の弾き終わりに、どこが良くできたとか、ここが悪かったと意見を出し合っています。そうすることでみんなと全ての情報を共有することができるからです。これを続け、積み重ねることにより、自分たちだけの音楽を作ることが可能にしています。

そして、そんな私たちのことを温かく見守ってくれ、支えてくださる講師や顧問の先生がいてくださるおかげで、今の私たちの音楽があると思っています。

これからも、日本伝統の楽器の味わいを感じ、私たちの強い絆で独自の音楽性を広げていきたいと思っています。



女子バスケットボール部

部長 床枝 佑里子

私たち女子バスケットボール部は、2年生6人、1年生10人でとても楽しく活動しています。そして顧問の先生2人、男子バスケットボール部OBの方2人をコーチに迎え、大会で1試合でも多く勝てるよう、ほぼ毎日練習しています。

私たちの部活は、その“ほぼ毎日”の練習を誰に強要されるでもなく、自分たちの意志で取り決め、行っています。練習日程を計画するのはもちろん、相手校に自ら連絡し、練習試合を組み、大会の書類や大会費の振込みなど、できることはすべて自分たちで行っています。なので、ゆるい練習をやりようと思えばできるし、練習をしないことも簡単にできてしまいます。ですが、この決して楽ではない練習を誰一人として投げ出そうとせず、続けることができているのは、一人一人が技術の向上、チームの目標を達成したい、その気持ちがあるからだと思います。

バスケットボールはチーム競技です。どんなに上手い人がいても、その人の力だけでは絶対に勝つことができない。必ずチームメイトの力を必要とするのです。苦しい練習をともに乗り越えてきた仲間との信頼関係は厚く、だからこそ試合に勝利した時の喜びは何にも代えられないものがあります。また、自分たちの甘さゆえに悔しい思いをすることもあります。その時は、先輩後輩関係なく自分の思ったことを言い合い、その反省を生かし、悔しさを糧にして、次の勝利のために練習を重ねていきます。

私たちを認めてくれて、私たちのために動いてくれている方々のおかげで成り立っている女子バスケットボール部。応援してくださる人たちに少しでも良いプレーを。ひとつでも多くの勝利を。チーム一丸となって恩返しできたらいいなと思っています。



被災地からの手紙

昨年の会報の編集がほとんど終わったころ、3.11の大震災と原発の事故が発生しました。

そこで、被災地域にお住まいの会員みなさまに、状況を伺う手紙と返信用のはがきを会報に同封しましたところ、何人かの方々にご返事をくださいました。

そのほかの方々その後は、残念ながら把握できておりません。みなさまが無事で避難なさっていることを祈りつつ、お便りをご紹介いたします。

被災地域にお住まいで、会員の消息をご存じの方は、篁会までお知らせくださいませ。

山部 美代子 水戸市在住

(旧姓・別所、昭和27年卒、高校4回生、篁52回生)

この度は、震災のご心配を頂きありがとうございました。幸い我が家の被災は軽く、家族も無事で元気でございます。町もほぼ復旧致しました。他の被災地域の会員のご無事を祈って居ります。篁会よりの見舞いのおたより、ありがたく感謝いたしました。

茂田 士郎 福島市在住

(昭和29年卒、高校6回生、篁54回生)

3月11日の東日本大震災の日、福島市は震度5の揺れで、家具は倒れ、食器や本が散乱、屋根瓦がバラバラと落ちました。幸いにも家屋の倒壊は免れましたが、75年の人生で経験した最大の地震でした。福島市は太平洋沿岸から遠く、津波の被害はありませんでしたが、水道、ガス、交通が全く遮断されて、しばらくの間は、非日常的な不便な生活を強いられました。それに続いて東電原発事故による放射能汚染が広がり始めて、20km以内の双葉地区町村の人々が、続々と避難してきました。一時は福島市内の体育館、公立学校に6,000名余の人が避難していて、故郷の田畑、漁場、家畜を残しての避難は無念であったろうと思います。福島県立医大に勤めて40年。10年前に退職して、その後も福島に住んでいますが、この美しい自然が荒らされていくことに、収拾の定まらない原発事故対策に憤りを感じます。

深澤 多紀子 盛岡市在住

(旧姓・赤瀬川、昭和30年卒、高校7回生、篁55回生)

東日本大震災の御見舞い状を同封して頂きありがとうございました。私の住む盛岡は、岩手県でも内陸にありまして、大きな揺れはありましたが、ほとんど被害はございませんでした。沿岸地

方の釜石、大船渡、陸前高田等を結ぶ海岸沿いの一帯は、大津波で家を流され、家族を亡くされた方々がいまだに避難所住まいです。ボランティア仲間の知り合いも命を落とされました。心痛む思いでおります。

今泉 雅子 郡山市在住

(旧姓・平野、昭和36年卒、高校13回生、篁61回生)

お見舞い状をいただき、早くお返事をと思いながらも日常の雑事にかまけ、大変遅くなりましたことをお許し下さいませ。日本全体を揺るがす災害で、皆様もそれぞれ大変でいらっしゃると思いますが、私共は私学を経営いたしており、建物はかなり被害を受けましたが、1,000名余りの子ども達に怪我がなかったことだけが、不幸中の幸いでした。余震、原発問題による不安を抱えながらも、幼稚園の方は予定通り新年度をスタート、いまだ屋外で遊ばせることも出来ずにおりますが、子ども達の元気な笑顔を見て、日々パワーをもらっております。一方、専門学校の方は傷みがひどく、ようやく今月から校舎の一部を使い、授業を再開いたします。大変な思いの毎日ですが、これからを支える子ども達のためにも、前向きで頑張っ参りたいと思います。会報、いつも楽しみに拝見させていただいております。会のご発展をお祈り申し上げます。

落合 泰子 宮城県名取市在住

(旧姓・野尻、昭和38年卒、高校15回生、篁63回生)

ご心配おかけしました。私は、3月11日の地震の時には、たまたま群馬にいました。名取の家も高台にあり、津波の被害にも遭わずに済み、お蔭さまで体も家も無事でした。留守宅には、バレー部時代の友人から何度もお電話をいただいたりと、ご心配をおかけしました。現在は、群馬の主人の父が骨折をしたので(地震とは関係ありません)、私共も群馬を主に生活することになりま

した。この連休に名取の家に行きましたが、東北道をボランティアの方か旅行の方か、沢山の車が東北に向かっていて、活気と力強さを感じました。被災された方々にとっても、多くの方が訪れて下さることが一番の励みになると思います。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

福崎 美和子 日立市在住

(昭和 44 年卒、高校 21 回生、筮 69 回生)

震災の地に柿の若葉がつつやと輝いています。この度は、思いがけずお見舞い頂き、有難く嬉しく存じます。当地は東北地方に比べれば、災害も無かったようなものと、我が身をとらえておりました。余震がこの災害を忘れるなといましめる如く続いており、地域としても、家から出る心が湧いて来ていないように思います。他地区がどうなっているか見に行くなど心苦しく、風の便りに「あーらしい」とか「こうらしい」と知るのみです。ご盛会祈ります。かしこ。

長谷川 真里 仙台市泉区在住

(旧姓・嶋田、昭和 50 年卒、高校 27 回生、筮 75 回生)

仙台は桜も散り、新緑の季節を迎えました。3月の震災では御心配をいただき、ありがたく思っております。幸いにも家族共に、多少の不便はありますが、無事に暮らしております。未曾有の大震災を経験し、なにげない日常のありがたさを、つくづくと感じさせられました。また、人間も自然の一部だということも思いしらされました。あの日から、時間が止まったのではなく、試練が始まり、今もその中にいる方が沢山いらっしゃいます。失われたものはあまりにも大きいですが、それぞれの方々に早く心の平安が訪れることを願う毎日です。

八田 久美子 仙台市青葉区在住

(旧姓・笠原、昭和 52 年卒、高校 29 回生、筮 77 回生)

筮会の皆様、3月11日の震災について、ご心配いただき、ありがとうございます。我が家はほとんど被害がありませんでしたのでご安心ください。家族もみな無事で、仙台の街中ではもう震災前と変わらぬ生活が戻っています。今は、避難生活をされている方々の健康と、被災地の一日も早い復興を祈るばかりです。筮会の皆様も、どうぞ

お身体に気をつけてお過ごしください。まずはご報告まで。

小島 康彦 仙台市宮城野区在住

(昭和 53 年卒、高校 30 回生、筮 78 回生)

今回の震災で、被害を受けた方々にお見舞い申し上げます。また、ご他界された方々のご冥福をお祈り申し上げます。我が家は不幸中の幸いで、家族も怪我は無く、家の被害もほぼゼロでした。インフラも数日で電気、水道が、2週間でガスも復旧しました。避難所での生活をしないで済んだのは幸運でした。

松本 光司 仙台市太白区在住

(昭和 57 年卒、高校 34 回生、筮 82 回生)

この度はご心配いただき申し訳ありません。震災当時は、混乱や不自由なことが多々ありましたものの、家族一同無事経過しております。もしかしたら同窓生の中には被害に遭われた方もいらっしゃるかも知れません。支援ができる体制があるようでしたら、そちらに手を差し伸べていただければと存じます。ありがとうございました。

山藤 郁夫・祥子 水戸市在住

(旧姓・生井、昭和 58 年卒、高校 35 回生、筮 83 回生)

お心遣いありがとうございます。本当に大変な震災でした。特に東北の被害には心痛めております。水戸も大きな被害がありましたが、今はかなりおちついて日々が送れるようになりました。公共施設等まだ復旧していないところも多ありますが、よい方向にいけばと思っております。まだ余震もありますが、同窓会事務局の皆様もお気をつけてお過ごし下さい。



「お休み処たかむら」



「えーっと、なっちゃん二つと爽健美茶二つ下さい。」お母さんと一緒にみえた中学生のご注文に、「はい、どうぞ。冷えているから美味しいですよ。来年、受験なさるのですか。同窓会の私共もお待ちしてますね。」

「いい香りにつられて入ってきました。コーヒーを3杯下さい。」「はい、お目が高い、ではなくて、お鼻が高い。有名ホテル仕様のコーヒーなんです。黒服のサービスで召し上がったら、きっと、1,000円近くすると思います。」「ホントですか〜」

「去年も来たんですよ。ここは落ちつけていいコーナーですね。」「ありがとうございます。同窓会のメンバーが、心をこめて運営をしておりますの。」

「ウーロン茶三つ下さい。あれ、これ何ですか。」「お〜、良く聞いて下さいました。同窓会が今年、110周年を迎えます。その企画で『篁会教育基金』を創設しました。Tシャツを制作して皆様にお買い上げ頂き、制作原価を除いたすべてを『篁奨学金』に入れます。これをご縁にお買い上げ下さったら、私、嬉しいんですけど。」「なるほど。じゃ、ひとつ協力しなくちゃね。Lを一枚ください。ところで、売値が2,000円だけど、原価ってどのくらいなんですか。」「郵送販売もしますので、原価としては平均で1,300円くらいかかります。」「つまり、僕は、700円の寄付をしたって事になる訳。同じく、嬉しいね。」



二日間にわたり、運営側の篁会関係者は、おそろいのTシャツを着て、エプロンをしめ、サービスをしました。

ちなみにこのTシャツの色は黒で、左胸に三つの校章（会報の裏表紙に印刷）、後ろ面の右下に「hand-in-hand」と銀色でプリントしました。高校の校歌に「〜携えて友と〜」との歌詞がありますので、英語で表記してみました。なかなか評判がよろしいです。

1日目には会長みずからTシャツ着用で販売されました。

茶菓子係は、前日にお菓子を買に行き、両手で持ちきれない程の量を買いました。おかげで、二日間、品不足にならずに乗り切ることが出来ました。

昨年に続き、34度の暑さの中で、飲み物ではオレンジジュースの「なっちゃん」の人气が高く、二日目では早々と品切れになりました。来年は仕入れ本数を増やしましょう。

紙コップの使用量から判断して、二日間で延べ1,500人前後の方がお見え下さった事になります。

今年も「お休み処たかむら」は階段を上がってすぐの部屋（2階）で、節電中にもかかわらず「冷房」が結構効いていましたので、複数回お見えになる方がいらっしゃいました。「ははは、又来ちゃいました。」「広き門ですから何度でもどうぞ。」

エプロン組とおお客様のやり取りはなかなか楽しいものでした。片付けの時間になってもまだ入ってみえる方がいらして、終了宣言をするのが申し訳なかつたくらいです。



平成 23 年度の実績

<開催日時>

9月10日(土) 9:30~15:00

9月11日(日) 9:30~14:30

<場所>

竹早高校2階 3B教室

<天気>

9月10日(土) 晴れ 気温34℃

9月11日(日) 晴れ 気温34℃

<動員数>

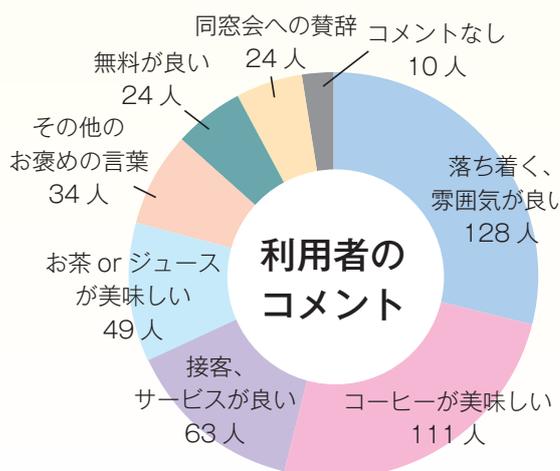
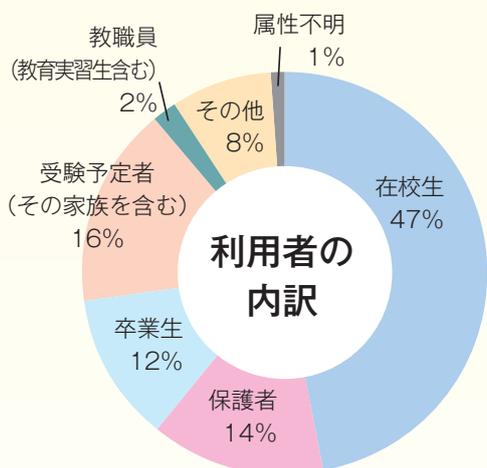
2日間で約1,500名

(紙コップの数量から推計)

<運営内容>

- ①本格コーヒー無料提供
- ②ソフトドリンクの無料提供
- ③Tシャツ販売
- ④パネル展示
- ⑤アンケートの実施

アンケートの回収結果



『筥』 回覧板

<開催しました>

●20 回生同期会

20回生は同期会を2011年6月19日(日)に開催しました。筥会総会お開きの後でしたので、流れに乗り総勢13名で水道橋駅近くのカラオケの一室に場所を定めました。そこでは歌の代わりに次々と話が飛び交いました。近況や多彩な話題の合間に「そういえば…は今どうしているのかな?」と声がすると、すかさず「今は、…」と誰かしらが受けて繋がり、心地よい空間の中でうなづいたり、笑ったりするうちに時間が過ぎていきました。

再会を期してカラオケルームを後にしました。マイクを誰一人握ることもありませんでしたが、どの顔にも歌ったより何倍もの満足感が溢れていました。夢満ちた日々の校友とひととき時間を持てたこの日は何よりの癒しと元気に繋がる日になったようです。

池上 美知子

●21 回生同期会

平成16年4月、一部有志の方達の多大なるご尽力により、卒業後35年目にして初めての同期会が開催されました。それまで音信の途絶えていた多くの同期生が再会を果たし、今でも「大同期会」と称されています。

以来、男女それぞれの小さな集まりを開いてきましたが、昨年、総会幹事学年として広く総会の参加を呼びかけ、総会終了後、7年ぶりに同期会を東京ドームホテル内の「シズラー」にて開催しました。男女別クラスだったため男女の馴染みが薄いのですが、司会の方達のユーモア溢れる進行で楽しく時を過ごすことができ、最後はジャンケンゲームで盛り上がったのでした。

ほとんどの同期生にとって、楽しかったとは言えない高校生活だったと思いますが、多感な青春の3年間で共有した者同士、新たな絆を紡いでいけたら、との思いで、これからも同期会を開催してまいります。

21回生の皆様、是非ご参加くださいね。
尚、書き込み掲示板、ブログもあります。
こちらにもご参加をお待ちしています。

小池 恵美子

書き込み掲示板 ヒマラヤ杉

<http://bunkyou1969.bbs.fc2.com/>

都立竹早高校S44卒生の同期の輪

<http://takehaya44.blog82.fc2.com/>

●16 回生同期会

2011年11月5日(土)16回生は4年ぶりに総会幹事後3回目の同期会を神保町「学生会館」で開催。34名が集まり久しぶりの再会を喜び合いました。

今回は不幸にして亡くなられた方が3名おられご冥福を祈り全員で黙祷しました。

97名の方から連絡をいただき近況報告を配布。夫婦のこと、年金生活のこと、孫のこと、優雅な趣味のこと、ボランティアとみなそれぞれのライフスタイルを持ち和やかな雰囲気でした。お互いこれからは健康で日々過ごせるというのが皆の実感でした。二次会は近頃のカラオケ店でさらに親交を温め夜遅くまで盛り上がりました。

2年後は卒業50年となり節目の同期会を考えております。今回来られなかった方々が次回来てくれることを祈念いたします。

榎本 毅

<筥会教育基金の進捗>

教育基金の規程類を準備し、制定を終えました。平成24年度から奨学生の選考をスタートするを旨とし、学校と調整しております。

清里高原 竹早山荘から



自然体験—竹早山荘

—自然から学び・自然林でリフレッシュ—

竹早山荘は清里高原の自然林・池・湿地・草原と変化に富んだ21,000㎡余の敷地内に吉村順三氏設計のセミナーハウスアーチェリー射場・陶芸施設・キャンプサイトなどがあります。恵まれた自然環境の自由空間＝自遊空間、子供キャンプ・合宿・ワークショップ・セミナーなどに是非ご利用下さい。

時代とともに受け継がれて、2011年の竹早山荘での活動の一部を写真でご紹介いたします

竹早山荘は、八ヶ岳南麓清里の牧場だった国有林を青少年の健全育成のために、山梨県が指定した学校指定区第1号として1960年に建設されました。当時、八ヶ岳南麓を西に白樺と山つつじの草原に鉄筋コンクリート2階建ての全景を見ることができたセミナーハウスも今は自然林に囲まれています。



ホームルーム合宿として専攻14回生から利用されてきましたが、社会情勢の変化やその他の経緯から在校生の利用が少なくなり、現在では、広く門戸を開き、青少年の健全育成の団体をはじめ多くの方々にご利用いただいております。竹早山荘が、恵まれた自然環境を生かし有意義な体験活動の場として、これからも活用されるよう努力をしております。

竹早会や対面している主な行事をお知らせします。詳細はHPでご覧下さい。竹早山荘で検索できます。

「自然体験型野外学習プログラム」開催中!

自然の中で体を動かして、気持ちよい汗をかきましょう。作業後の給水しながらの一杯もまた格別です。

「ハイ・ハイ・ホー」

嵐沢・谷根程・菊田りを中心とした森の自然環境整備

「ルン・ルンヘルパー隊」

山荘整備・清掃・メンテ等山荘の生活環境整備

活動日 5月・7月・9月・11月の第2週末(土・日)

参加費 3,500円(宿泊・食費・保険料含む、交通費は各自負担)

募集人員 各15名

「自然体験型野外学習プログラム」募集

共同募です。作品を穴窯に窯詰めし、赤松の薪で100時間余焼きます

自然体験型野外学習プログラム

竹早高校創立40周年記念事業として学校・PTA・同窓生の協力によって建てられた竹早山荘(八ヶ岳南麓)の施設整備のため、引き続き賛助会費を継続募集いたしております。ご支援のほどよろしくお願いたします

●振込先 竹早会 みずほ銀行(駒込支店) 普通 0463246

●お問い合わせ・お申し込みは 竹早会事務局へ

TEL 03-3943-2415 FAX 03-3941-5872

e-mail takehayakai@forest.ocn.ne.jp

ホームページ <http://www.32.ocn.ne.jp/~takehayakai/>

篁会学年幹事連絡会について

学年幹事連絡会は、篁会の同窓会活動、会報発行などの継続に欠かせない集いとして、会員名簿の共有、篁会活動との連携強化、会費納入への協力依頼などをテーマに連絡会を行っていきます。

幅広い学年間の親睦を深めるために、総会幹事を終えた学年から、一番若い会員まで情報交換の

場として、理事会と連動で運営されます。

学年幹事は、原則として各学年2名(男女各1名)で構成され、クラス会、同期会等の運営に携わっていただきます。今年の学年幹事連絡会は総会前の5月に開催予定です。

第5回篁寿会開催

2011年10月29日（土） 学士会館にて



雲一つない秋晴れの中、第5回篁寿会が一つ橋の「学士会館」にて開催されました。

開始の1時間以上前から、理事の皆さんが集まり、受付等の準備に入りました。会場の設営、景品の準備、進行の確認等を終わると、間もなく高女の皆さんがいらっしゃいました。開始時間が近づくと、受付は一段とにぎやかになります。



やがて、城戸崎愛さまの開会ご挨拶でスタートとなりました。この時、7月の篁会総会で会長に就任された松本紀子さまが紹介され、お二人が壇上でお話しをされ、とても和やかな雰囲気でした。松本会長より篁会特製のTシャツも紹介され、殆どの皆さんがお買い上げされました。高女パワー恐るべし。出口さまのピアノ伴奏で第二高女の校歌を4番まで合唱し、記念撮影をしてお開きとなりました。



会報「篁」に篁寿会のお知らせも同封して、通信費を節約しております。そのため、だいぶ早目のご案内になるのですが、《出席予定》の方だけでなく、《出席したいけれど、もう少し近くなってから決定》という方も、「出席」に○をつけて返信はがきをお送り下さい。9月に入りましたら、その方々には、もう一度確認のご案内をお送りいたします。確定は、それからで結構です。



高女に入学なさった学年のみなさま、どうぞこの場をクラス会にご利用くださいませ。同期の方々は一つのテーブルにご一緒にお着きいただけます。



二次会に別室をご希望のクラスも、ご相談下されば、喜んで手配のお手伝いをさせていただきます。



次回 第6回篁寿会

2012年10月6日（土）会場は同じ「学士会館」です。詳しくは会報同封のご案内（ピンクの封筒に入っています）をご覧ください。たくさんの方々のご出席をお待ちしております。

関西箏会だより

濱田 元瑛 高校24回生（昭和47年卒／箏72回生）

「普通の生活」がとてもありがたく感じられる昨今ですが、皆様お変わりないでしょうか？

平素から関西箏会の活動へのご理解、ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

平成23年度の総会は11月20日(日)、最近では定例会場となっているホテルグランヴィア大阪で開催されました。前日までの大雨は夜明けと共に去り、11月なのに夏日を記録するほどの暖かい一日でした。改築されたJR大阪駅の駅舎のガラス天井を眼下に望み、遠方の箕面の山々も見えるお部屋でした。

一年ぶりの方、十年ぶりの方、初めての方、箏会会長の松本紀子様のご出席を賜り和やかに開会しました。恒例の参加者全員の近況を伺い、おいしいお食事に2時間があっという間に過ぎてしまいました。

「高女の校歌を知らなかった」という方や「高女の校歌はキーが高くて・・・」という意見を受けて、松本会長自ら音階を3度下げた新しい譜面を用意くださり、早速食事会中ほどで高女の校歌合唱となりました。高女の先輩方の張りのある美しい歌声にリードされての合唱でした。

「60歳を目前にして少々体にガタが・・・」などと言っている現状を痛感いたしました。

皆さんの話は尽きることがなかったのですが、最後に高校校歌の合唱をして集合写真の撮影でお開きとなりました。

平成24年度の関西箏会総会は11月18日(日)、同じくホテルグランヴィア大阪で予定いたしております。

関西圏の皆さんはもちろん全国各地からの多くの方々の参加をお待ちいたしております。

最後に、箏会の一層のご発展をお祈りいたします。



湘南箏会だより

影本 昌則 高校6回生（昭和29年卒／箏54回生）

23年5月11日(水)に総会と懇親会を、例年通り鎌倉市七里ヶ浜の「鎌倉プリンスホテル」で行った。冒頭、昨年まで毎会出席されていた薬師寺静様(高女35回生)のご逝去を悼み全員で黙祷した。総会は、先ず磯貝会長から昨秋の「竹早高校創立110周年記念事業」並びに本年の「箏会」の行事についてのお話があり、次いで村上幹事(高校8回生)から会計と会員異動の報告があって終了した。

懇親会は、本部の元副会長・小山紀久弥君(高校6回生)の乾杯で始まった。会食後、松本紀子様(高女41回生・箏会会長)の発案ならびに司会で、今回の震災に関する話を全員の方々から伺うこととなった。まず出席者の中で唯一人「関東大震災」を経験された橋本先輩(高女35回生)から、「当時は未だ6・7歳であったが、今回の揺れの方が大きかったのでは」とのご発言。また、当日旅先で体育館に避難された方や、あの日以降電力を節約され体調を崩された方の話、震災時に車を運転されていた時の状況、あるいは外出先の家族との連絡で苦労された話、さらには終戦時の如くもっと自己責任を強調すべきではとの意見が出るなど話は尽きず、最後に司会の松

本先輩からの「このような時期には、引き篋らず今日のように皆で集まる事に意義があるのでは」との言葉で締めとなった。

最後に高女・高校それぞれの校歌を斉唱し、小沢幹事(高校19回生)の閉会の辞でお開きとなった。

なお、「平成24年度の総会・懇親会」は次の通りです。

日時：平成24年5月16日(水) 12:00～14:00
場所：鎌倉プリンスホテル



平成23年度「篁会総会・懇親会」報告

平成23年度の篁会の総会及び講演会、それに続く懇親会は、東京ドームホテル「天空」において行われました。出席者は、来賓8名、高女から高校63回生までの会員148名の総勢156名でした。会場には終始和やかで楽しそうな会話が溢れていました。

【総会】

高校21回生の松丸直樹さんの司会で、磯貝会長の挨拶で始まりました。16回生の榎本毅副会長が議長に選任され、新理事承認、退任理事紹介、22年度事業報告、決算報告、監査報告が行われました。引き続き、松本新会長が承認され、事業計画案、予算案の趣旨説明が行われ、全て承認されました。

【講演会】

総会の後、伊藤裕子さん（高校21回生・文京学院大学人間学部心理学科教授）による昨今の夫婦の関係を、アンケート調査や統計データに基づいた興味深い内容をご講演いただきました。

【懇親会】

来賓の紹介、ついで来賓を代表して、竹早高校丹藤校長先生の挨拶、浅田前校長先生の乾杯の音頭で懇親会が始まりました。途中、篁会110周年企画メンバー理事より、篁会PRがありました。シンボルマークの優秀賞は、高校29回生の青山俊也さんと高校59回生の藤井珠恵さんが受賞されました。最後に、高女と高校の校歌を全員で合唱して、楽しい会もお開きとなりました。Tシャツの販売も行われました。



平成23年度「篁会総会・懇親会」会計報告

(単位 円)

●収入		●支出	
会費	1,112,000	会場費・懇親会費	1,318,628
祝金等	42,000	講師謝礼	30,000
篁会より補助	246,993	プログラム等印刷代	18,900
		通信費他	33,465
合計	1,400,993	合計	1,400,993



理事会報告

平成23年度の理事会活動は以下のとおりです。

【理事会】

●5月31日 第1回理事会 出席者15名 委任状4名

1) 承認事項

- ・ 篁会110周年に向けての新たな活動(案)について(総会にて活動が可決されれば(案)はとる)
- ・ 今年度特別セミナーの概要
- ・ 次期会長候補者の選考経過(高女41回 松本紀子氏を次期会長として決定)
- ・ 木村民子氏(高校19回生)の副会長・理事退任の件

2) 報告事項

- ・ 今年度総会の進捗状況について
- ・ 会報・会長挨拶文における被災地支援について
- ・ 高校側の被災地の高校生受け入れについて

●8月27日 第2回理事会 出席者13名 委任状4名

1) 承認事項

- ・ 今年度総会・懇親会の総括及び収支
- ・ 新理事承認の件・林義昭氏(高校21回生) 鹿住倫世氏(高校34回生)
- ・ 副会長選任の件・古閑恵一氏(高校29回生)
- ・ 110周年記念企画
教育基金事務局の選定、第二高女記念碑の設置場所・サイズについて
- ・ 今年度会報委員の選出・吉岡新(高校21回生) 会報委員長に依頼
- ・ 篁会ホームページ・名簿管理を専門会社に託す件
- ・ 会計管理方法について
- ・ 原嘉昭氏(高校17回生) 理事退任の件

2) 報告事項

- ・ 特別セミナーの実施状況
- ・ 竹早祭について(協力依頼)

●1月28日 第3回理事会 出席者18名 委任状2名

1) 承認事項

- ・ 府立第二高女記念碑のデザイン・仕様決定関係
- ・ 教育基金進捗、今年度は見送り次年度に高校側と再調整をする
- ・ ホームページリニューアル、今後の名簿管理方法について
- ・ 2012年特別セミナー実施方針(案)
- ・ 会費多額納付者等への感謝状授与
- ・ 総会会費振込み口座の名称変更及び専用印鑑の作成

2) 報告事項

- ・ 特別セミナー アンケート集計分析
- ・ 口座名義(郵便局・銀行)変更手続き終了
- ・ 篁寿会実施状況
- ・ 会報2012(No23)進捗状況

●3月31日 第4回理事会 出席者14名 委任状6名

1) 承認事項

- ・ 平成23年度収支報告
- ・ 平成24年度収支予算(案)
- ・ 平成24年度活動計画(案)

2) 報告事項

- ・ 府立第二高女記念碑除幕式について
- ・ 会報2012(No23)進捗状況

*推進会議:5月10日、8月11日、8月23日、10月25日、11月1日、12月8日、12月21日、1月16日、3月27日

<その他>

- *4月7日 竹早高校入学式に参列
- *7月14日 竹早高校にて篁会特別セミナー19講座開催
- *9月10、11日 竹早祭に「おやすみ処たかむら」を出店
- *10月29日 篁寿会開催 於:学士会館
- *1月28日 篁会新年会を竹早高校、父母と教師の会合同で実施
- *3月3日 竹早高校卒業式に参列
- *3月20日 府立第二高女記念碑除幕式
- *3月31日 会計監査実施

篁会 平成23年度収支報告(案) 平成23年4月1日より平成24年3月31日まで

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年繰越金	16,638,009	総会開催関係費	1,400,993
入会金:新入会員	1,904,000	贈呈記念品費	489,072
年会費	2,276,000	会報発行費	2,356,161
総会会費	1,154,000	会議費	27,336
Tシャツ等売上	408,000	通信費	30,910
雑収入	14,000	送料	7,500
諸事業収入(*1)	600,000	旅費交通費	28,100
受取利息	2,224	事務用品、消耗品費	57,221
周年事業基金より(*2)	1,671,096	教育援助金	100,000
教育基金より(*3)	100,000	奨学金	0
		慶弔費	40,821
		HP運営費	345,450
		諸事業経費(*5)	1,014,971
		周年事業費(*6)	1,671,096
		会費払い出し手数料	4,650
		振り込み手数料	1,295
		予備費	0
小計	24,767,329	小計	7,575,576
周年事業基金	1,638,994	次年度繰越金	17,191,753
教育基金(*4)	1,900,000	周年事業基金	1,638,994
合計	28,306,323	教育基金	1,900,000
		合計	28,306,323

*1	事業内容	金額
	篁寿会会費	600,000
*2:	周年事業基金より振替	
*3:	教育基金より振替	
*4:	周年事業基金より振替(200万円)	
*6:	篁会110周年企画 (高女記念碑、Tシャツ制作等)	

期末の現金預貯金等の残高	金額
現金	655,897
預貯金	
ゆうちょ銀行 通常貯金	2,169,197
ゆうちょ銀行 定期貯金	7,000,000
ゆうちょ銀行 振替口座	2,178,160
みずほ銀行 普通預金	8,727,493
合計	20,730,747

*5	事業内容	金額
	学年幹事連絡会	24,000
	竹早祭企画	81,246
	篁寿会	657,663
	篁特別セミナー	251,462
	名簿データ管理費	600
	諸事業経費合計	1,014,971

*6	事業内容	金額
	周年事業費	
	シンボルマーク	7,508
	Tシャツ作成	309,631
	高女記念碑	1,353,957
	お料理教室(実施は2012年秋)	0
	合計	1,671,096

篁会 平成24年度収支予算(案) 平成24年4月1日より平成25年3月31日まで

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年繰越金	17,191,753	総会開催関係費	1,800,000
入会金:新入会員	1,800,000	贈呈記念品費	500,000
年会費	2,700,000	会報発行費	2,500,000
総会会費	1,200,000	会議費	100,000
Tシャツ販売等売上	500,000	通信費	30,000
雑収入	0	送料	10,000
諸事業収入	500,000	旅費交通費	50,000
受取利息	3,000	事務用品、消耗品費	50,000
周年事業基金より	300,000	教育援助金	100,000
教育基金より	340,000	奨学金	240,000
		慶弔費	50,000
		諸事業経費(*7)	2,150,000
		会費払出手数料	5,000
		予備費	300,000
小計	24,534,753	小計	7,885,000
周年事業基金	1,338,994	次年度繰越金	16,649,753
教育基金	1,560,000	周年事業基金	1,338,994
合計	27,433,747	教育基金	1,560,000
		合計	27,433,747

*7	事業内容	金額	事業内容	金額
	学年幹事連絡会	100,000	篁会特別セミナー	250,000
	竹早祭出店企画	100,000	名簿データ管理費	700,000
	篁寿会	700,000	お料理教室	300,000
	諸事業経費合計			2,150,000

篁会役員名簿<平成24年4月現在>

会 長	松本 紀子 (高女41回生)	理 事	菅原 哲朗 (高校19回生)
名誉会長	丹藤 浩 (竹早高校校長)	〃	香川 洋子 (高校20回生)
顧問	星野 昌子 (高校2回生)	〃	池上 美知子 (高校20回生)
〃	磯貝 恵三 (高校7回生)	〃	小田 みどり (高校20回生)
副会長	榎本 毅 (高校16回生)	〃	岩野 英子 (高校20回生)
〃	中村 光宏 (高校23回生)	〃	松丸 直樹 (高校21回生)
〃	古関 恵一 (高校29回生)	〃	小野 由紀子 (高校21回生)
理 事	内山 光政 (高校10回生)	〃	林 義昭 (高校21回生)
〃	山内 亨 (高校14回生)	〃	水田 茂夫 (高校23回生)
〃	佐藤 美紗子 (高校16回生)	〃	鹿住 倫世 (高校34回生)
〃	古山 浩之助 (高校16回生)	〃	平川 悟 (高校52回生)
〃	松島 美弓 (高校17回生)	監 査	村上 伸一 (高校14回生)
〃	森 多恵子 (高校18回生)	〃	高倉 孝生 (高校23回生)

お知らせ

●年会費納入のお願い

いつもご協力ありがとうございます。年会費の複数口受け付けがはじまり、おかげさまで予算を上回る増収となりました。これからも同窓生相互の交流、親睦を深めるため、さらに母校及び現役生に貢献するためにも、篁会会計の充実を図りたく、会員の皆様のいっそうのご協力を宜しくお願い申し上げます。

【年会費は複数口受け付けます】

同封の郵便振込用紙をご利用ください。

- ・年会費 1口 1,000円 1口以上
- ・総会参加費 8,000円 (参加の方のみ)

●「篁〇〇回生」について

会報のなかに、「篁〇〇回生」と記載されていますが、これは1901年の第一回卒業生が(篁1回生) = (高女1回生)、1969年卒業の高校21回生は(篁69回生)、2012年の卒業生は(篁112回生) = (高校64回生)というようになります。会員同士の卒業年数の差異がすぐわかり、会報や総会等で用いています。

●ご意見・ご希望は

会報は同窓生みんなのものです。本誌へのご意見・ご希望を同封のハガキ(総会出欠用)等で「会報委員会」までお寄せください。

また、住所等が変わられた方は、「名簿委員会」までお知らせください。ご自分で篁会ホームページで変更することもできます。

〒112-0002 文京区小石川4-2-1

東京都立竹早高校内「篁会」

篁会連絡用電話 090-8853-1901 takamurakai@gmail.com

編集後記

「東日本大震災」のとき、私は小石川郵便局に篁会の振込依頼書を印刷作成するため、申請に訪れていました。そして、郵便局を出た直後に地震が発生したのです。竹早高校前の春日通りは、オフィスビルやマンションが建ち並び、その建物の大きな揺れがはっきりと見え、すぐにいつもの地震とは違うと感じました。急いで会社に戻り、テレビを見て大変な事態になっていることを知りました。あれから1年が過ぎ、その傷跡は未だ癒えていません。人間の力では自然大災害に敵わないことを思い知らされました。しかし、この大災害を通じて、忘れ掛けていた人と人との絆、繋がり、思いやり、助け合う心の大切さを思い出させられたことが、せめてもの救いでした。

被災されたみなさんが一日でも早く、もとの暮らしに戻れることをお祈りいたします。(Y)

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

旧職員

大竹 協子 2009.09.29

高女・専攻科

篁31回	高女31回	1931	昭和6女	甲	西岡	ミキ	(杉山)	2012.03.30
篁32回	高女32回	1932	昭和7女	甲	大槻	廣子	(井上)	2011.01.11
篁32回	高女32回	1932	昭和7女	乙	武田	喬子	(木村)	2011.12.08
篁33回	高女33回	1933	昭和8女	甲	桶谷	静枝	(村上)	2010.10.14
篁33回	高女33回	1933	昭和8女	甲	草川	澄子	(山下)	2007.6.16
篁33回	高女33回	1933	昭和8女	甲	粕谷	喜久子	(福田)	2008.10.
篁34回	高女34回	1934	昭和9女	甲	日種	輝子	(小針)	2011.01.08
篁35回	高女35回	1935	昭和10女	紅	大矢	栄子	(内海)	2011.04.
篁35回	高女35回	1935	昭和10女		清水	速女	(岸田)	2007.11.21
篁40回	高女40回	1940	昭和15女	紅	小田村	蓮子	(山岸)	2011.10.01
篁41回	高女41回	1941	昭和16女		山口	瞭子	(小島)	2011.10.10
篁42回	高女42回	1942	昭和17女		古谷	すみ江	(石川)	2011.01.11
篁42回	高女42回	1942	昭和17女		松岡	美代子	(柴田)	2011.12.08
篁42回	高女42回	1942	昭和17女		森田	神奈子	(大貫)	2010.10.14
篁42回	高女42回	1942	昭和17女		野地	京子	(小野)	2007.6.16
篁43回	高女43回	1943	昭和18女		宮内	たみ子	(廣瀬)	2009.08.
篁44回	高女44回	1944	昭和19女		保坂	裕子	(関谷)	2011.11.05
篁46回	高女46回	1945	昭和20女		山本	えみ子	(石渡)	2009.05.29

高校

篁51回	高校3回	1951	昭和26高	J	田中	順子		
篁52回	高校4回	1952	昭和27高		郡 佐代子	(段野)		2011.03.20
篁52回	高校4回	1952	昭和27高		細田 和子	(重田)		2006.04.
篁52回	高校4回	1952	昭和27高		松村 慶子	(川田)		2011.04.18
篁53回	高校5回	1953	昭和28高	B	佐々木 禮子			2010.11.06
篁55回	高校7回	1955	昭和30高	B	吉澤 敦子	(磯崎)		
篁55回	高校7回	1955	昭和30高	C	金子 美津代	(中江)		2010.10.08
篁55回	高校7回	1955	昭和30高	C	高橋 節子			2010.
篁57回	高校9回	1957	昭和32高	A	柴田 香代子			2011.5
篁58回	高校10回	1958	昭和33高	E	黒須 信子	(籠脇)		2007.9
篁61回	高校13回	1961	昭和36高	B	小塚 義雄			2011.6.3
篁61回	高校13回	1961	昭和36高	D	加藤 郷海			2011.4.17
篁61回	高校13回	1961	昭和36高	F	川口 征之輔			2011.4.7
篁62回	高校14回	1962	昭和37高	B	竹居田 陽一			2010.8.2
篁64回	高校16回	1964	昭和39高	A	鈴木 陽子	(武田)		2010.03.08
篁64回	高校16回	1964	昭和39高	C	名川 修			
篁64回	高校16回	1964	昭和39高	F	芝 静雄			2011.09.14
篁69回	高校21回	1969	昭和44高	C	山口 恵美子			2011.01.21
篁71回	高校23回	1971	昭和46高	A	高橋 やす子	(倉田)		2011.12.7
篁71回	高校23回	1971	昭和46高	A	石黒 恭子	(鈴木)		2011.3.3
篁71回	高校23回	1971	昭和46高	D	清水 初美	(藤田)		2011.11.21
篁72回	高校24回	1972	昭和47高	A	荒川 明子	(龍野)		

(敬称略)

*平成24年3月31日までにご連絡いただいたものです。



会報編集委員

委員長	吉岡 新 (高校 21 回生)	
委員	榎本 毅 (高校 16 回生)	佐藤 美紗子 (高校 16 回生)
	古山 浩之助 (高校 16 回生)	野川 淑子 (高校 18 回生)
	香川 洋子 (高校 20 回生)	池上 美知子 (高校 20 回生)
	岩野 英子 (高校 20 回生)	小田 みどり (高校 20 回生)
	小池 恵美子 (高校 21 回生)	小出 あつ子 (高校 21 回生)
	小野 由紀子 (高校 21 回生)	佐藤 一枝 (高校 21 回生)
	後藤 栄子 (高校 21 回生)	林 義昭 (高校 21 回生)
	松丸 直樹 (高校 21 回生)	今井 大弥太 (高校 22 回生)
	近藤 裕美 (高校 22 回生)	猪狩 和子 (高校 22 回生)
	棚沢 由貴子 (高校 22 回生)	松沢 由利子 (高校 22 回生)
	渡辺 信博 (高校 22 回生)	水田 茂夫 (高校 23 回生)
	中村 光宏 (高校 23 回生)	古関 恵一 (高校 29 回生)

簗会報

発行日 2012年4月23日
発行 簗会
〒112-0002
東京都文京区小石川4-2-1
東京都立竹早高等学校内
連絡用電話 090-8853-1901
<http://www.takamurakai.com>
編集 簗会 会報編集委員会
印刷 共立速記印刷株式会社
〒102-0072
東京都千代田区飯田橋3-11-24